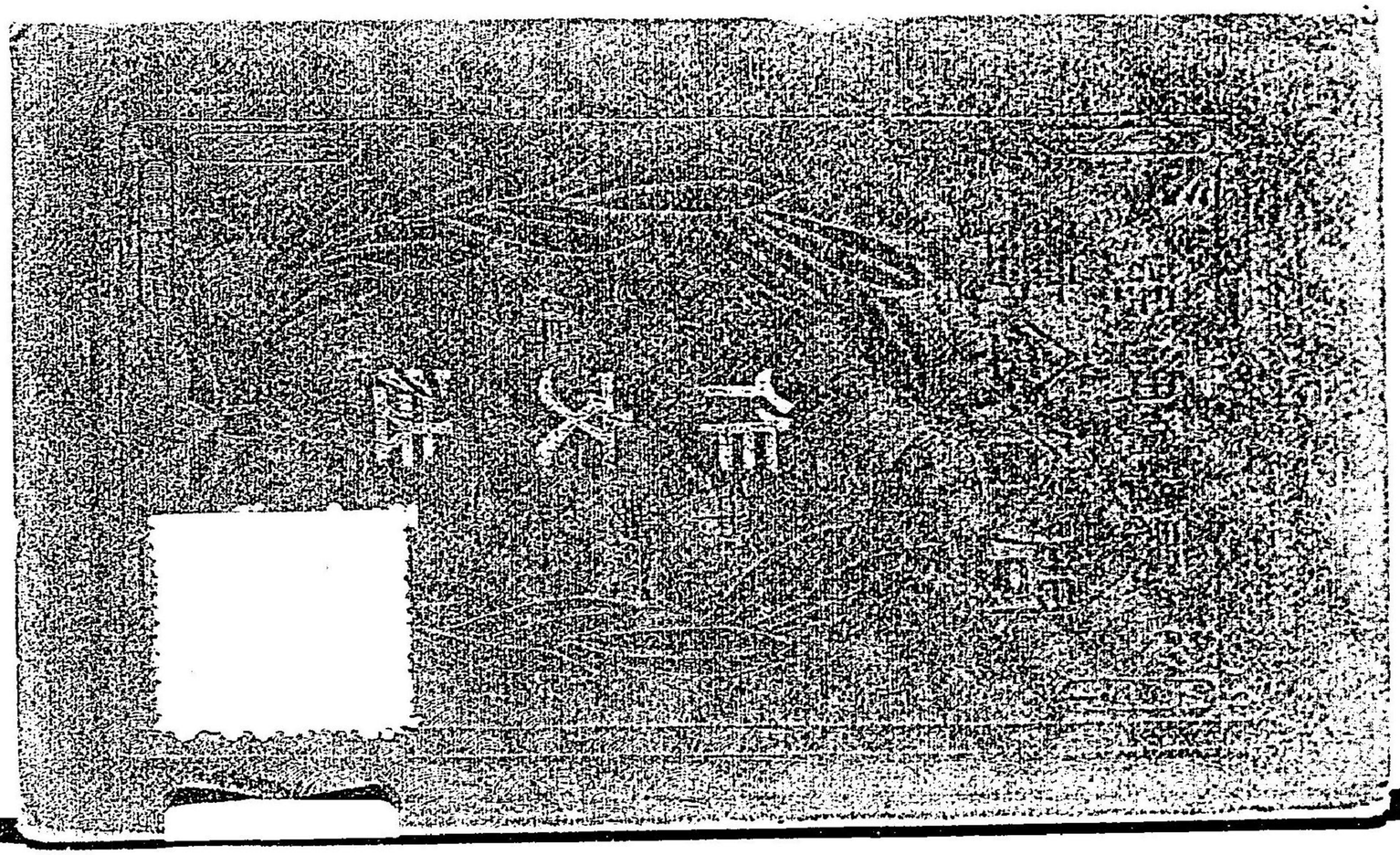

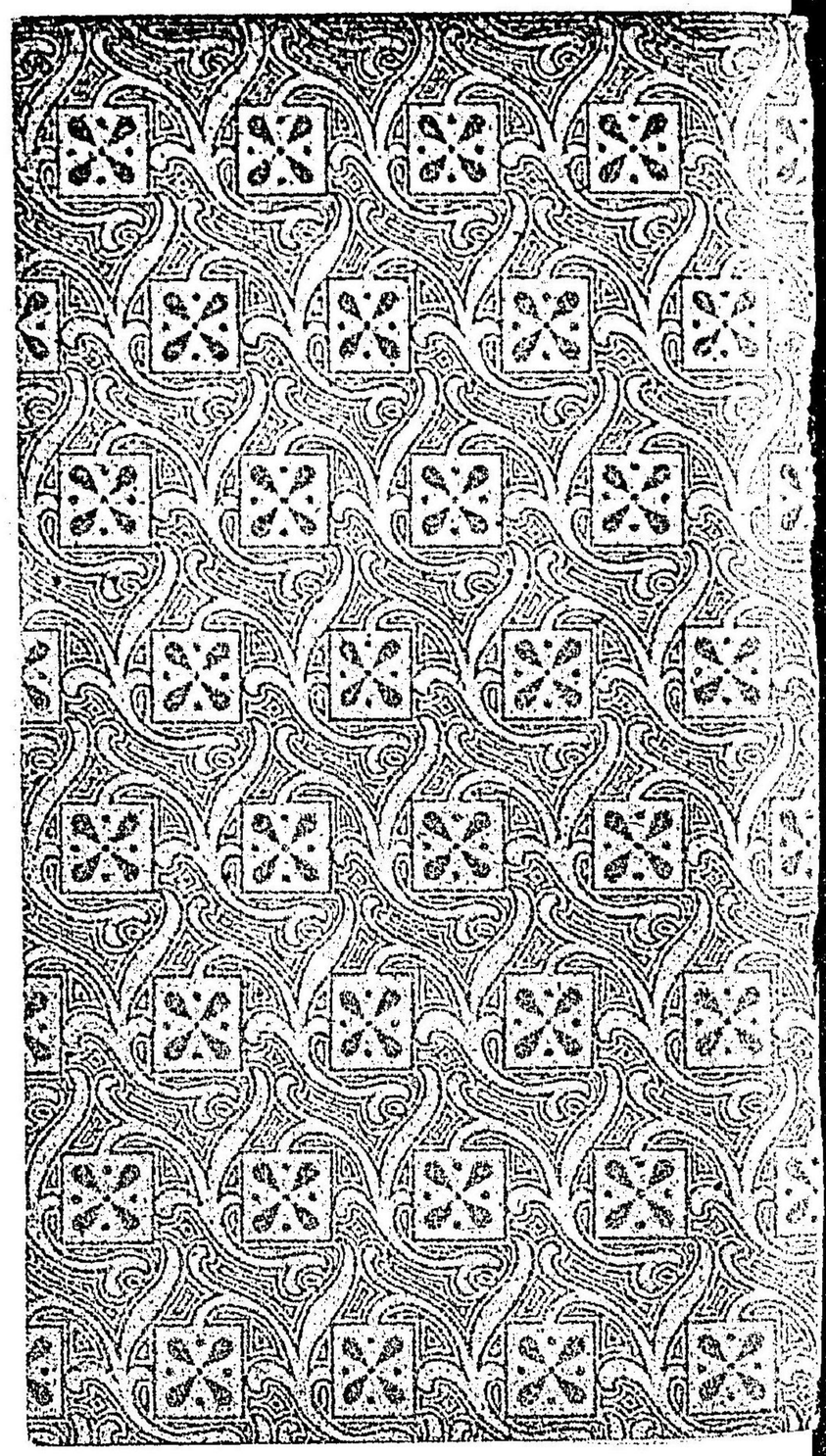

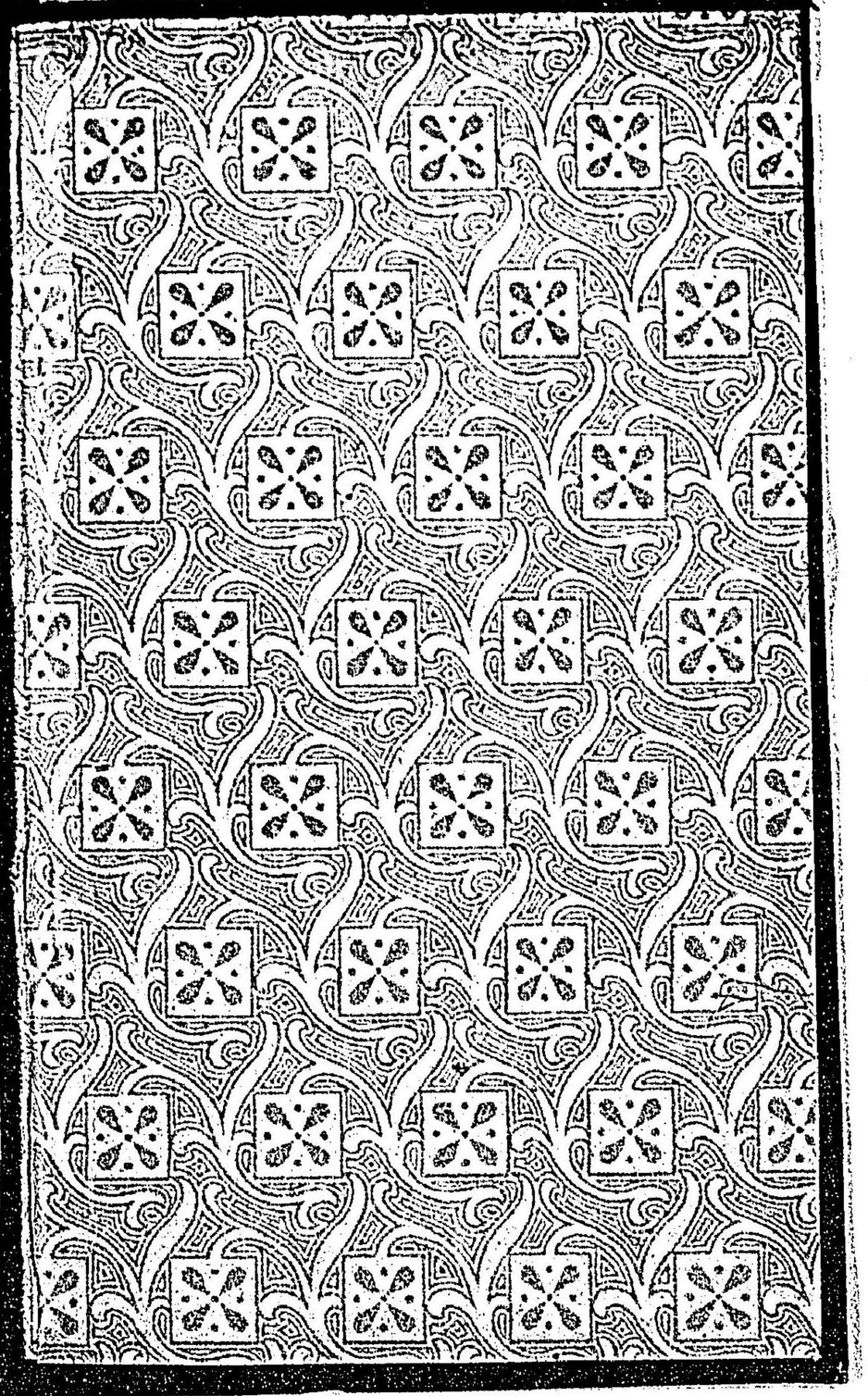

凡例

一　本書ハ、作文ニ關スル一般的緊要ナル事項ヲ掲ゲ、之ニ付スルニ表解的解説ヲ試ミタルモノナリ。

二　緒論ニ於テハ文章、文體、修辭等、苟モ文章ニ關スルコトヲ掲ゲ、文例ニ於テハ、各種ノ文例ヲ掲ゲテ、其ノ如何ヲ知得セシメンコトヲ期セリ。

三　本書載スル處ノ文例ハ、多クハ漢文ヲ譯シタルモノナリ。

明治四十五年七月

著者識

表解細註

作文法目次

一 緒論……一
一 文章……一
二 文體……六八
三 修辭……一三
四 要訣……一四五
五 和漢譯文法……一五四

二 文例……一六〇
一 記文……一七三
二 題銘……一九六
三 序引……二一一
四 題跋……二三三
五 傳……二六二
六 贊銘……二六七
七 碑……二七二
八 祭文……二七六
九 書牘……二八八
十 雜著……二九九

(終)

表解細註

作文法

中等教育學會編

一緒論

イ、意義

文章トハ、文體ニ從ツテ、心ニ思フトコロノモノヲ文字、語句ニ表ハシタルモノヲ云フ。

1、意義……モト五經ニ出デタルモノナリ。

2、書ニ生ズルモノ

1、詔。
2、命。
3、策。
4、檄。

一、文章

作文法

緒論

ロ、出所

3、局ニ生ズルモノ

1、帝。
2、述。
3、論。
4、議。

4、詩ニ生ズルモノ

1、賦。
2、詠。
3、歌。
4、頌。

5、禮ニ生ズルモノ

1、祭。
2、祀。
3、哀。
4、誄。

6、春秋ニ生ズルモノ

1、書。
2、奏。
3、箴。
4、銘。

作文法

イ、意義

文ハ、體ヲ辨フルヨリ先キナルハ無シ。體正シクシテ後、意以テ之ヲ經シ、氣以テ之ヲ貫キ、辭以テ之ヲ飾ル。體ハ、文ノ幹ナリ。意ハ、文ノ師ナリ。氣ハ、文ノ翼ナリ。詞ハ、文ノ華ナリ。體愼マザルトキハ、文亂ル。意立タザルトキハ、文舛フ。氣昌ナラザルトキハ、即チ文萎ム。辭修メザルトキハ、即チ文蕪ル、四ノモノハ、文ノ病ナリ。故ニ四病去リテ、文斯ニ巧ナリト云フベシ。

緒論

文體ニハ、古來種々ノモノアリトイヘドモ、學生諸子ニ適切ナルモノノミ十一種ヲ撰ミ、以テ小解ヲ試ムルコトヽセン。

1、意義

い、正體

事ヲ記スノ文ヲ云フ。議論ヲ主トスルモノ、半ハ叙事、半ハ議論アリ。物ニ托シテ意ヲ寓スルモノアリ。

韻語ヲ以テ叙スルモノ、篇末係クルニ詩歌ヲ以テスルモノ。此ノ種ノ文ニ於イテ、議論ヲ用フルトキハ、之レヲ失體トナスモノアリトイヘドモ、否ラズ。山水名勝ヲ記スルニ景物ヲ點綴シ、併セテ情ヲ叙スルトキハ、便チ妙觀ヲナシ、毫論ヲ要セズトイヘドモ、廟堂、亭臺ノ記ノゴトキハ、議論ヲ用ヒザレバ、文ヲ成サズ。

作文法

2、記……

ろ、別體

結

論

奇石亭記

長野豊山

亭、石ヲ以テ名ヅク。其ノ多キニ取リシナリ。石、奇ヲ以テ名ヅク。其ノ形ニ取リシナリ。亭ハ其ノ北ヲ塞ギ。三面開曠。以テ坐シテ觀ルモノ。大竹老松檜柏楓杉粲然トシテ林ヲ成ス。而シテ石ノ多クシテ且ツ奇ナルニ如クハ莫シ。龍ニシテ鱗疊ムカ若ク。鳳ニシテ翼張ルガ若ク。鶴仰ギテ軒シ。

作文法

鴉奮ヒテ擢シ。猊ニシテ蹲シ。虎ニシテ蹲ス。羅斯ニ跧シ。象斯ニ馴ス。馬ノ立ツ。牛ノ臥スル。豹ニ似タルモノ。駝ニ似タルモノ。兎鹿豚尨然タルモノヽ如シ。或ハ松下ニ崎シ。或ハ竹間ニ聳エ。檜柏楓杉ト雜處シテ互ニ出ヅ。客ノ歩シテ遊ブ者。愛シテ之レヲ撫シ。駭キテ之レヲ避ケ。其ノ奇ヲ

結

聆

例

贊シテ其ノ怪ヲ詫ム。婦女嬰兒一見膽墜チ。驚怖啼呼シ走リ且ツ僵レザルハナシ。石ノ奇觀此ニ極ル。宋ノ米元章、奇石ヲ好ム。見レバ輒チ之レヲ拜ス。儻シ此レヲ觀セシメバ。即チ必ズ僅々爾トシテ。函拜スルニ疲レントス。昔黄初平白石ヲ叱セシニ。悉ク化シテ羊トナリヌ。吾レ意フニ初平

作文法

ヲシテ此ノ亭ニ遊バシメ。試ムニ其ノ變幻ノ術ヲ以テセバ。則チ翼アルモノハ飛ビ。蹲スルモノハ起チ。乍チ騰リ乍チ躍忽チ哮リ忽チ咆ヘン。鬪ヒテ相齧ミ。怒リテ相搏チ。敗鱗殘甲。破牙折角。蹂躪狼藉。草木コレガ爲メニ震動シ。朽壤コレガ爲メニ墳起センニハ。其ノ奇觀タル豈ニ更ニ盛ナ

緒論

ラズヤ。然レドモ。初平乎豈ニ遭ヒ易カランヤ。今姑ク其ノ奇形怪狀ノ大略ヲ記シテ。以テ石ヲ好ムコト元章其ノ人ノ如キ者ニ示ス。原漢文

山ニ登リテ、山寺ニ遊ブ等登臨尋訪ノコト、其ノ同遊ノ人トヲ紀識スルヲ云フ。之ヲ叙スルニハ、簡ニシテ贍ナランコトヲ欲シ、筆ヲ執ルコト健ニ

作文法

3、題名

5、意義

シテ嚴ナランコトヲ欲ス。是レ亦一ノ文體ナリ。之ヲ要スルニ、記文ト同視シテ可ナリトイヘドモ、其ノ主トスルトコロノモノハ、登臨尋訪ノ歳月ト其ノ同遊ノ人トヲ記述スルニアリ。古今其ノ佳題ニ同ジキハ、以テ難キヲ知ルニ足ラン。

書臨皐亭、蘇東坡

東坡居士酒ニ醉ヒ。仮ニ

結論

飽キ。儿上倚ル。白雲左ニ繚リ。清江右ニ洄リ。重門洞開シ。林巒全入ス。是ノ時ニ當テ。思アルガ如クニシテ思フ所ナシ。以テ萬物ノ備ヲ受ク。慚愧慚愧。原漢文

題鳳翔東院右亜書贊壁

蘇東坡

嘉祐癸卯上之ノ夜。來リテ王維摩詰ガ筆ヲ觀ル。時ニ夜已ニ闌ナリ。殘燈耿々。書僧踊々タリ。恍然タルコト之レニ久シクス。原漢文

例ろ、

作文法

序ハ、緒ナリ。序一ニ叙ニ作ル。國文ニ所謂はしがきナリ。其ノ事理、次第ヲ叙シテ、序アルコト絲ノ緒ノゴトキヲ云フ。體ニ二アリ。叙事、議論、是レナリ。其序ノ題ニ、某ノ序、又ハ某事ニ叙スト云ヘルガ如ク、何レモ

意義い、

結論

作者ノ意ニ任ス。蓋シ記文ト同シク、係クルニ詩ヲ以テスルモノハ、變體ナリトス。後世送序ノ目アリ。

名小齋叙　佐藤一齋

兩間靈逸ノ氣。融合凝結夫ノ瓌詭奇崛雄麗ノ狀ヲ爲ス。是ニ於テ山アリ。而シテ偉人又往々其ノ間ニ生ズ。故ニ偉人ハ必ズ山ヲ愛シ。山モ亦必ズ偉

作文法

4、序

人ニ待ツ。乃チ以テ其ノ類相肖タル無カランヤ。吾レ聞ク川村處士ハ奥ノ產ナリ。奥ニ奇山水多シ少壯薄遊。既ニシテ都下ニ來リ。齊ニ老ユ。然レドモ。其ノ倜傥拔俗ノ概。竟ニ羈グニ勢利ヲ以テスベカラズ。夫ノ意興忽チ到ル每ニ。輒チ必ズ山水ノ區ヲ求メテ。而シテ之レニ詣ル。數百里ノ遠キ

結論

ろ、例……

ト雖モ。辭セザルナリ。豈ニ所謂偉人山ヲ愛スルモノニアラズヤ。曩ニハ其ノ觀ル所ノ山ヲ以テ。谷生文晁ニ屬シテ悉ク之レヲ圖セシム。將ニ以テ世ノ山ヲ愛スル者ト之レヲ共ニセントス。歳ヲ閱シテ乃チ成ル。因リテ谷生ニ介シ。余ニ叙ヲ請フ。之レヲ披ケバ則チ巖岫竇壑ノ峩巖ニシテ谽谺。

作文法

夫ノ英靈ノ窟宅スル所。石室ノ閟藏スル所ト。一ニ皆縮メテ尺籍ノ内ニ在リ觀ル者ヲシテ恍乎トシテ神會シ。目睹テ脚賤ムガ如クナラシム。洵ニ所謂戸庭ヲ越エズシテ。坐ナガラ萬里ヲ挹ムモノナリ。嗚呼。處士直ニ山ヲ愛スルノミナラズシテ。又山ヲ愛スルノ人ヲ愛ス。其ノ愛タルヤ。亦滋博カ

ラズヤ。余偶未ダ處士ヲ見ズト強モ。而モ山ヲ愛スル頗ル處士ト同ジ。則チ已ニ愛籍ノ中ニ在リ。叙引ノ請。何ヲ以テ辭スルコトヲセン。獨奈セン今謬リテ塵網ニ墮チ。猿鶴久シク絶シ。夢想徒ニ切ナルヲ。然リト雖モ。男婚シ女嫁ス。待ツニ十年ヲ以テセバ。則チ必ズ將ニ青鞋布襪。處士ニ山

、意義

巔水涯ニ從ヒ。意ヲ肆ニシ游覽シテ以テ遂初ヲ賦セントス。知ラズ處士ニ肯テ之レガ前導ヲナスヤ否ヤ。姑ク此レヲ書シテ之レニ問フ。原漢文

大略序ノ如クニシテ、稍簡潔ナリ。蓋シ序ノ濫觴ニシテ、唐以後ニ於イテ始メテ此ノ文體ヲ見ルニ至ル。

近古史談引　鹽谷岩陰

二、引

卷首南風沙ヲ揚ゲ、破片鏃ニ塵埃凡席ニ滿チ、頭ハ淋々トシテ痛ム、偶士廣北ノ卷ヲ袖ニシテ來リ示シ、余ニ題言ヲ屬ス其ノ英主猛將ノ事ヲ讀メバ喑啞叱咤ノ聲ヲ耳ニスルガ如ク、其ノ武夫悍卒畸人俠客ノコトヲ讀メバ。槊ヲ横ヘ劍ヲ舞ハシ腕ヲ扼シ眉ヲ揚グルノ客ヲ目ニスルガ如ク、其ノ

忠義狷介節烈ノ事ヲ讀メバ。人ヲシテ襟ヲ整ヘ色ヲ正シクシ廉ヲ琢キ隅ヲ礪クノ狀ヲ想ハシム。是ニ於テ案ヲ拍チテ快ト呼ビ。爵ヲ命ジテ滿ヲ引ク。頭風頓ニ愈ユ、憶フ昔山陽賴氏ニ京師ニ從フトキ。晡間酒ニ侍リ。前古ノ英雄ノ事蹟ヲ縱譚スルヲモテ常トセシコトヲ、半テ曰ク。余弱冠江都ニ

緒論

遊ビ。尾藤二洲ノ塾ニ在リシニ。翁杯酌ノ間好ミテ我國ノ事ヲ說キタリキ。醇乎タル篤行ノ君子。而シテ其ノ中乃チ此ノ如キモノアリ。余曰ク。亦所謂日本膽アルニ由ルニ非ズヤ。士廣平生才ヲ硯墨ニ磨キ。瀟洒タル風流文士ニシテ。兜牟ノ氣象。毫端ニ見ハル、此ノ如キモ。亦乃チ此ニ由ルコト

ろ、例……

作文法

無カランヤ。夫レ文武ヲ左右ニスル者。姚姒子姬ノ教皆爾リ。而シテ我ガ民ノ武ニ於ケル。獨教ヲ待タザルモノアラン。加之ナラズ學ヲ以テス。健ニシテ順。質ニシテ義。以テ公ニ奉シ宮ヲ守リ。社稷ヲ衞リ。黎元ヲ保ンズ。此レ萬古一姓。東海ニ表シテ宇宙ニ雄ナル所以ナリ。士廣ノ是ノ書ヲ著ス。

緒論

意其レ此ニ在ルカ。乙卯孟陬念二日。鵞林巷ノ九里香園ニ題ス。

簡編ノ末ニ付スル語ナリ。所謂オクガキニシテ、經史詩文集ノ類、前ニ序引アリテ、後ニ後序アリ。其ノ後之ヲ見ルモノ、或ヒハ、人ノ請ニヨリ、或ハ感ズルトコロニヨリテ、名詞ヲ撰シテ、書冊ノ上ニ付ス。又時アリテ

作文法

イ、意義

カ、書幅ニ題スルコトアリ。スベテ之ヲ題跋ト云フ。其ノ實ヲ繹ヌルニ四アリ。題、跋、某ニ書ス。某ヲ續ム、即チ是レナリ。若シ夫レ四者ノ別ヲ說カバ、題ハ、其ノ義ヲ審締ス。跋ハ本ナリ。文ニヨリテ本ヲ見ハスナリ。書ハ、其ノ語ヲ書シ、讀ハ讀ムニヨリテナリ。其ノ起原ヲ繹ヌルニ、題讀

ハ、唐ニ始マリ、題書ハ、宋ニ起レルモノナリ。題跋ノ主トスル所ノモノハ類ヲ擧ゲテ之レヲ該ネ其ノ詞タルヤ、古ヲ考ヘ今ヲ證シ、疑ヲ解キ、謬ヲ訂シ、善ヲ賞シ、惡ヲ貶シ、法ヲ立テ、誡ヲ垂ル。專ラ簡潔ヲ以テ主トナスコトヲ要ス。其ノ序引ト同ジカラザルハ勿論ナリ。

ホ、題跋

1、

題寒江獨釣圖賴山陽

僕西遊シテ筑後河ヲ下ル。時方ニ臘月。舴艋ノ中ニ瑟縮シ。痴凍ノ蠅如シ。瓢酒ヲ出ダシ。寒威ニ抵敵セント欲シ。顧ルニ下物無シ。枯蘆間ニ漁翁ノ信宿スルヲ見、就キテ小魚數尾ヲ乞フ。舟子又爲メニ寒芹ヲ摘ミ。相俱ニ數酌ス。而シテ雪霰忽チ至リ。篷ヲ架スルニ

暇アラス。急ニ蓬ヲ頭ニ蔽ヒテ。相酬酢シタリキ。今此ノ圖ヲ南洞相公ノ座ニ觀。往事ヲ憶ヒ起スニ已ニ五裘葛ナリ。因リテ相公ノ爲メニ之レヲ述ブ。相公ノ如キハ居レバ則チ深簷。出ヅレバ則チ大輿高蓋。豈ニ人間ニ遇フ所、此ノ如キモノアルヲ知ランヤ。原漢文

讀諸葛武侯傳鹽谷寶山

例

古稱ス。非常ノ功ヲナスモノハ、必ズ悲常ノ行アリト。予ハ乃チ曰ク。至常ノ行アリテ。後ニ非常ヘ功成ルト。光武ノ初メテ起ルヤ。絳衣大冠。人皆驚キテ曰フ。謹厚ナル者モ亦之レヲ爲スカト。殊テ謹厚ナル者ニアラザレバ。則チ大事ヲナス能ハザルコトヲ知ラズ。霍光小心謹愼。昌邑ヲ廢シ。

緒論

宣帝ヲ立ツ。文王ハ小心翼々。周家ノ基業ヲ啓ク。孔明モ亦自ラ謂フ。先帝臣ガ謹慎ヲ知ルト。夫レ謹慎ノ孔明タル所以ヲ知ラバ。則チ孔明ノ英雄タル所以ヲ知ラン。原漢文

論ハ、議ナリ。論ノ名目、立チタルハ、論語ニ始マレリ。六韜二論ノゴトキハ、後人ノ追題スルモノト云フ。其ノ體タル、然

作文法

1、意義

ルヤ否ヤヲ辨正スルニアリ。故ニ、有數ヲ窮メ、無形ヲ追ヒ、深ヲ鉤シ、極ヲ取ル。依リテ百慮ノ筌蹄萬事ノ種衡ナリ。古人ハ、之ヲ四品ニ分ツ。卽チ政ヲ陳ブルトキハ、則チ議說ト契ヲ合シ、經ヲ釋クトキハ、則チ傳註ノ意義ト旨ヲ參シ、史ヲ辯ズルトキハ、則チ贊評ト齊シク行ハル。文ヲ銓ス

ルトキハ、則チ序引ト紀ヲ共ニス。是レ論ノ大體ト說キ、又更ニ八品トナスコトアリ。曰ク理論、政論、經論、史論、文論、諷論、寓論、設論。其ノ題ニ至リテハ、某ノ論ト云ヒ、某ヲ論ズト云フモ畢竟作者ノ命ズルニ任セテ、別ニ異議ナシ。

白起論　長野豊山

天下ノ禍ハ、常ニ不虞ニ

存シテ。福モ亦不虞ニ存ス。禍福ノ相生ズル環ノ端ナキガ如シ。之レヲ大ニシテハ國ニ在リ。之レヲ小ニシテハ身ニ在リ。皆然ラザルコトナシ。況ヤ戰陳ノ際。事ノ變虞ルベキコト。瞬息ノ間ニ在ルヲヤ。是ヲ以テ朝ニ勝ツモノ。暮ニ敗ル、ノ資トナリ。暮ニ敗ル、モノ。朝ニ勝ツノ資トナル。故

ニ善ク戰フ者ハ勝ヲ勝ツノ日ニ求メズシテ。之レヲ敗ルヽノ日ニ求ム。敗ヲ敗ルヽノ日ニ虞ラズシテ。之レヲ勝ツノ日ニ虞ル。斯レ之レヲ良將ト謂フ。然ラザレバ則チ一勝終ニ保ツベカラズシテ。一敗復收ムベカラズ。故ニ良將ハ勝チテ喜ビズ。敗レテ患ヘズ。勝テバ必ず保ツベキノ術アリ。敗

ろ、例……

ルレバ必ズ救フベキノ術ヲ求ム。昔白起ノ趙ニ勝ツヤ。詐リテ其ノ四十萬人ヲ坑ニス。此ノ時ニ當リテ。危イカナ秦ヤ。岌々乎トシテ累卵ヨリモ甚シ。何トナレば則チ趙ノ俗素ヨリ氣義ヲ重ンズ。其ノ四十萬人ノ子弟。方ニ其ノ父兄ノ死ヲ耻ヂ。皆死力ヲ出シテ秦ニ甘心セント欲ス。此ノ時ニ當

緒論

リテ。趙ニ若シ人アラバ。其ノ子弟ヲ驅リテ。西ニ嚮ヒテ秦ヲ攻メナバ。趙ノ卒奮呼跳躍シ。勇氣百倍。一百ニ當ラザルコトナク。其ノ秦ヲ破ルコト必セリ。是レ所謂勝ヲ敗ルヽノ日ニ求ムルモノナリ。惜イカナ。趙ノ將怯惰ニシテ一人モ。之レガ唱ヲナスコトナク。遂ニ孺子ノ名ヲ成スヤ。白起

作文法

モ亦敗ヲ勝ツノ日ニ虞ラズ。其ノ勢ニ乘ジテ其ノ酷暴ヲ逞クス。豈ニ危カラズヤ。其ノ敗ヲ趙ニ取ラザルハ天幸ノミ。惡ンゾ其ノ善ク戰フニ在ランヤ。然レドモ。秦韓魏燕ヲ溺ラス白起ノ功居多。頗ル計策ヲ以テ勝ヲ取ルモ。亦多クハ天幸ノミ。其ノ應侯ト隙アルニ及ビ。大禍ノ將ニ至ラント

結論

スルヲ知ラズ。己ノ功ヲ恃ミテ同列ヲ凌ギ。怨言ヲ出ダシテ其ノ主ニ驕ル。安ンゾ免ルヽコトヲ得ンヤ。宜ナルカナ。身ハ杜郵ニ死シテ。人ノ笑トナルヤ。亦自ラ其ノ不虞ニ備ヘザルノ禍ナリ。

原漢文

解ナリ、述ナリ。論ハ大ニ異ナルコトナシ。物ニ托シテ、意ヲ寓スルモノアリ。文名説字説ノ如ニ贈ルモノアリ。之ヲ要スルニ、義理ヲ解キテ、己ガ意ヲ述ブルナリ。其ノ述ブルヤ、縱横抑揚詳贍ヲ以テ、上トスルノミ。説ノ能ハ、説卦ニ起ル。漢ノ許愼、説文ヲ作ル。亦其ノ名ヲ祖トシテ以テ篇ニ命ズ。

老子猶龍説　川北溫山

黯然トシテ潛マリ、倏然

作文法

ト、説……

イ、意義

結論

スルヲ知ラズ。己ノ功ヲ恃ミテ同列ヲ凌ギ。怨言ヲ出ダシテ其ノ主ニ驕ル。安ンゾ免ルヽコトヲ得ンヤ。宜ナルカナ。身ハ杜郵ニ死シテ。人ノ笑トナルヤ。亦自ラ其ノ不虞ニ備ヘザルノ禍ナリ。

原漢文

解ナリ、述ナリ。論ハ大ニ異ナルコトナシ。物ニ托シテ、意ヲ寓スルモノ

作文法

ト、說……

イ、意義

アリ。又名說、字說、人ニ贈ルモノアリ。之ヲ要スルニ、義理ヲ解キテ、己ガ意ヲ述ブルナリ。其ノ述ブルヤ、縱橫抑揚詳贍ヲ以テ、上トスルノミ。說ノ能ハヽ、說卦ニ起ル。漢ノ許愼、說文ヲ作ル。亦其ノ名ヲ祖トシテ以テ篇ニ命ズ。

老子猶龍說　川北溫山

黯然トシテ潛マリ、倏然

トシテ躍リ。騃々然トシテ虛ニ冲リ。變化測ラレザル。此レヲ龍ト謂フ。神且ツ靈ト謂フベシ。然レドモ。其ノ肉食フベカラズ。其皮衣ルベカラズ。則チ羊豕狐狸魚鼈ヲ以テ食フベク。以テ衣ルベキニ如カズ。凡ソ天下ノ物。此ノ形象アレバ。必ズ此ノ功用アリ。苟モ此ノ功用ナクレバ。之レヲ不神

ロ、例……

不靈ト謂フモ亦可ナリ。史ニ稱ス孔子周ニ適キ。禮ヲ老子ニ問フ。既ニシテ之レヲ目スルニ龍ヲ以テス。學者惑ヒヌ。余ヲ以テ老子ヲ觀ルニ。其ノ言玄微ニシテ。其ノ教ヲ體セント欲スル。猶影ヲ逐ヒテ風ヲ搏ツガ如シ。是レ夫子ノ吾レ知ルコト能ハズト謂ヒシ所以ナリ。曰ク然ラバ則チ老子

論

優ナルモノカ。曰ク老子ハ龍ナリ。夫子ハ人ナリ。天下百年以テ龍ナカルベキモ。一日以テ人ナカル可カラズ。夫子ノ意ヲ推スニ。蓋シ龍ノ網スベカラズ。綸スベカラズ。矰スベカラザル。羊豕狐狸魚鼈ノ用ニ供スベキガ如クナラザルヲ謂フナリ。

事蹟ヲ記載シテ、以テ後世ニ傳フルモノナリト

作文法

漢ノ司馬遷ハ、史記ヲ著シ、始メテ列傳ヲ作リ、以テ一人始終ヲ紀シテ後世ノ史家卒ニヨク易フルコトナシ。之ニ亞ギテ、山林軍巷、或ヒハ隱德アリテ、彰ハレザルモノ、或ヒハ忠臣烈婦ニシテ、其行爲ノ模範トナルベキモノ、或ヒハ奇人俠客ノ任俠等、之ガ傳記ヲ作リ、以テ其ノ事蹟ヲ萬世ニ傳

い、意義

緒論

フルナリ。文墨者流間々其ノ意ヲ寓シテ、交フルニ滑稽ノ術ヲ以テスレドモ、皆同ジク傳ノ體ナリ。若シ其ノ品ヲ論ゼバ、史傳、家傳、托傳、假傳ノ四體ニ分ツコトヲ得ベキナリ。之ヲ要スルニ、其ノ人ノ事蹟ヲ記シ、後世ニ傳フルヲ以テ、主トナス。

蕎麵ヲ鬻グ者ノ傳

中井履軒

城西沙塙ニ蕎麵ヲ鬻グ者アリ。泉氏ト曰フ。善ク、售ル。婢僮數十百人ヲ蓄フ。祖シテ磨スル者。巾シテ篩スル者。洩スル者。棍スル者。縷スル者。淪スル者。器ヲ陳ズル者。漿ヲ置ク者。客ヲ待スル者。日出デ、作シ。夜闌ニシテ後息ム。吾レ聞ク、蕎麵ハ價ノ廉ナルモノ。

作文法

緒論

喜ビテ餞フ者ト雖モ。百錢ニ耐ヘズ。少ナルモ者ハ其ノ六ノ一ニシテ飽クト。然リ而シテ泉氏錢ヲ收ムルコト。日ニ數十百緡。善ク售ルト謂フベシ。其ノ北街ニ亦鬻グ者アリ。亦泉氏ト曰フ。諸ノ南泉氏ニ沾フ者。其門ヲ過ギテ顧ミズ。之レヲ久クシテ將ニ業ヲ更ヘントス。南泉氏之レヲ聞キ。

作文法

例……

門ニ踵リテ訊ヒテ曰ク。我レ汝ト業ヲ同ジクスル。是レ兄弟ナリ。今汝售レザルヲ以テ業ヲ廢スルハ不可ナリ。我レ且ツ汝ニ貸サン。北泉氏謝シテ曰ク。能ク之レヲ貸スト雖モ而モ售レズハ。恐クハ繼カザラン。南泉氏曰ク。我レ能ク汝ヲシテ售レシメント。還リ命ジテ之レヲ錢ヲ輸ス。夜ハ

則チ戍ニシテ舖ヲ收メ。戶ヲ叩キ沾ハンコトヲ求ムル者アレバ。輙チ曰ク。戍ノ後ハ北泉氏ニ沾ヘ。亦猶我ノゴトキナリト。是ニ於テ諸ノ南泉氏ニ沾フ者。戍ノ後ハ皆北泉氏ニ行ク此ニ由リテ北泉氏晝ニ售レズシテ。夜ニ售レ。亦富メリ。鄉鄰ノ聞ク者咸曰ク。善イカナト。然リ而シテ南泉氏益售

ル。卒ニ大ニ富メリ。嗚呼。泉氏ハ市井ノ賤人ノミ。然レドモ。能ク兄弟ノ愛ニ推スモノ。又達セント欲シテ人ヲ達スルモノニ類ス。其ノ富ヲ致スコト蓋シ故アルナリ。今夫レ仕ノ肩ヲ朝ニ駢ベ。其ノ國ニ祿スル者。獨兄弟ノ親アラザルカ。其ノ職ヲ同ジクシ事ヲ聯スルニ至リテ。益近クシテ益

緒論

相嫉ミ。曾テ寇讎ニ之若カザル者。能ク泉氏ニ愧ヅルコトナカランヤ。吾レ聞ク泉氏ハ。異行多キモノト。是其異ノ一ナリ。

贊ハ稱美ナリ。本、讃ニ作ル。漢ノ司馬相如、始メテ荆軻ヲ贊セリ。其ノ詞亡ブトイヘドモ、而モ後人、之ヲ祖トナス。唐代ニ於テハ、進士ノ試ニ用ヒタルコトアリ。其ノ

作文法

ハ、意義

體ヲ說カバ。三アリ。史贊、哀贊及ビ史贊、是レナリ。詩贊ハ、諸書ニ載スル人物、文章、書畫ノ贊ノ如キモノヲ云ヒ、哀贊ハ、人ノ歿シタルヲ悲ミテ、人ノ德ヲ述ベ之ヲ贊スルモノヲ云ヒ、史贊ハ、唐賢ヲ兼ヌルモノヲ云フ。即チ史記ノ索隱、東漢晉書ノ諸贊ノゴトキモノ、卽チ是ナリ。贊ノ

緒論

ナ、贊

體ナル促ニシテ曠ナラズ、四言一句、數韻ノ辭ニ盤セシムルナリ。

楠廷尉ノ贊　佐藤一齋

南柯夢ヲトス。羆ニ非ズ。熊ニ非ズ。爰ニ王愾ニ敵ス。萬夫ノ雄。帷籌廟謨。丹誠至忠。斃レテ後ニ已ム。蹇々躬ニ匪ズ。諸葛逝ハケリ。誰カ遺風

1、

作文法

ヲ繼ガン。嗟吾ガ日域。唯楠公アルノミ。

全篇通シテスベテ十二句、一東ノ韻ヲ用フ。隔句ゴトニ第四字ニ相當ス。假名交リ文ニ譯シタルヲ以テ、韻字ハ、象ヲ換フ。

註、

陶靖節畫贊（序ヲ付セル）柴野栗山

緒論

ろ、例……

此レ兒童ト雖モ望ミテ其ノ先生タルコトヲ知ルモノハ。菊ヲ以テスルノミ。能ク先生ヲ知ルモノハ。端晃笏ヲ搢ム。之レヲ先生ト謂フテ可ナリ。介冑戈ヲ荷フ。之レヲ先生ト謂フテ可ナリ。若シ必ズ菊ヲ以テシ。柳ヲ以テシ。無絃ノ琴ヲ以テ

作文法

2、

シテ。後ニ之レヲ先生ト謂フトキハ。則チ是レ兒童ノ見ナリ。又必ズ菊ト柳ト無絃ノ琴トヲ去リテ。後ニ之ヲ先生ト謂ハントト欲スレバ。則チ癡人ノ夢ヲ說クナリ。善イ哉。先儒朱晦翁。斷ズルニ春秋ノ法ヲ以テシテ。曰ク。晉ノ徵士陶

潛。
菊ヲ采リ柳ヲ植エ。
琴有リテ音無シ。我
レ古人ヲ思フニ。實
ニ我ガ心ヲ獲タリ。

原漢文

銘ハ、名ナリ。劉勰曰ク、器ヲ見テ名ヲ正スナリ。故ニ曰ク、器ヲ作リテハ、能ク銘スレバ、大夫トナルベシトシテ山川、宮室、門井ノ類、皆銘詞アリ。當

ニ之ヲ器物ニ施スノミナラズ、其ノ體、二アリ。曰ク警戒、祝頌、銘ハ、祝頌。銘ハ博文ニシテ温潤ヲ貴ブ。別ニ碑ノ銘、墓誌ノ銘アレド、此ニハ擧ゲズ。『碑』ノ部ニ就キテ知ルベシ。賛銘ハ序ノ如キモノアリ。否ラザルモノアリ。諸家多クハ序ニ因リテ其ノ言ハント欲スル所ヲ述ベ、

緒論

篇末係ルニ韻文ヲ以テス。然ルニ必ズシモ韻ヲ蹈マザルモノアリ。余ハ題名ノ下ニ賛ノ字ヲ以テシタルモノハ、此ノ部門ニ收メタレド、文體明辯粹抄ニ記スラク、述賛ト稱スルモノ、名ハ賛ト云フモ、實ハ則チ評論ノ文ナリ。故ニ之レヲ論ニ編スト。又曰フ、詞ハ賛ニ似タリト雖モ、實ハ則チ

作文法

リ、銘……い、意義

小序ノ語タリ。故ニ之レヲ其ノ部ニ編スト。小序トハ、大序ニ對シテコレレヲ稱スルナリ。大序ハ所謂序ニシテ、小序ニ對シテ稱スルナリ。而シテ小序ハ、篇章ノ作意ヲ言フナリ。本書ニハ、小序ノ目ヲ缺キタレバ、此ニ一言ヲ辨ズルコト此ノ如シ。

筆筐銘　古賀精里

緒論

ろ、例……

1、剛柔心ニアリ、用行金藏、機ニ乘ジテ發ス。鋒穎當リ難シ。

2、硯匣銘　佐藤一齋

楊柳ノ風梧桐ノ月芭蕉ノ雨梅花ノ雪皆吟詠ニ入ルニ、硯筆ニ資ク。此物、何ゾ此ノ時ニ背クベケンヤ。此ノ時何ゾ此ノ物無カルベケンヤ。

碑ハ、埤ナリ。上古ノ帝

作文法

王始メテ封禪ト號シ石碑ヲ垂ニ樹ツ。故ニ碑ト云フ。其ノ銘ヲ刻スルコトハ、周秦ヨリ始マレリ。後漢以來、漸ク盛ニ山川ノ碑アリ、城池ノ碑アリ。宮室ノ碑アリ、橋道ノ碑アリ、塋域ノ碑アリ。神廟ノ碑アリ、家廟ノ碑アリ。其ノ他、古跡ノ碑、功德ノ碑、墓道ノ碑、寺觀ノ碑、托物ノ碑等アリ。

緒論

皆庸器漸ク開クニヨリテ、而シテ後之ヲ造ル。所謂石ヲ以テ、金ニ代フ。不朽ニ同ジキモノナリ。

故ニ碑ハ、實ニ銘器、銘ハ、實ニ碑文ナリ。其ノ序ハ、則チ傳、其ノ文ハ、則チ銘、是レ則チ碑ノ體ナリ。碑文ノ體ハ、叙事ヲ以テ主トストイヘドモ、註ニ議論ヲ交フルモノ、半叙事、半議論ナル

意義

作文法

モノアリ。蓋シ叙事ヲ主トスルモノハ正體、議論ヲ主トスルモノハ、變體ナリ。叙事ニ議論ヲ交フルモノハ、變ニシテ其ノ正ヲ失ハザルモノ云フベシ。其ノ列ヲ舉グルニ各體ヲ以テスルモノハ、却テ煩雜ニ失スルノ恐アレバ一二種ノミニ止メン。今其ノ例ヲ舉グルニ、碑陰文以下ノ解ヲ示サン。

誌ハ、記ナリ。銘ハ、名ナリ。古ノ人、德善功烈、世ニ名アルベキモノアリ。歿スルトキハ則チ、後人コレガタメニ器ヲ鑄テ以テ銘シテ、無窮ニ傳ヘシム。蔡中郎集ニ載スルトコロノ朱公叔鼎ノ銘ノゴトキ是ノミ。漢ノ壯子夏ニ至リテ、始メテ文ヲ勒シ、墓ノ側ニ之ヲ埋ム。遂ニ墓誌アリ。後人

ミナ之ニ因ル。蓋シ葬時ニ於イテ、其ノ人ノ世系、名字、爵里、行治、年壽、卒葬ノ日月ト其ノ子孫ノ大略トヲ、石ニ勒シテ蓋ヲ加ヘ、墳前三尺ノ地ニ埋メ、以テ異時陵谷變遷ノ防トナス。之ヲ墓誌ト云フ。其ノ意ヲ用フルコト深遠ニシテ、古意ニ於イテ害ナキナリ。夫ノ末流ニ迨ビテ、乃チ手ヲ文

ろ、墓誌銘

士ニ借ルコトアリ。以爲ラク以テ今日ヲ信ジテ、後ニ傳フベシト。潤飾ノ甚ダ過グルモノ、亦泣々ニシテ之アリ。則チ其ノ文同ジト雖モ、意コヽニ相異ナレルナリ。然レドモ、正人ヲシテ筆ヲ執ラシムルトキハ、必ズ苟テ人ニ徇フニ情ヲ以テセズ、其ノ題ヲ論ズルニ至リテハ、即チ墓誌銘ト云

フアリ。誌アリ、銘アルモノ、是ナリ。墓誌幷ニ序ト云フ。誌アリ、銘アリテ、又先キニ序アルモノ是ナリ。然ルニ誌銘ト稱シテ、或ヒハ誌アリテ、銘ナク、或ヒハ誌アリテ、銘ナク、或ヒハ銘アリテ誌ナキモノハ、則チ別體ナリ。墓誌ト云フトキハ、誌アリテ銘ナシ。墓誌ト云フトキハ、即チ銘アリ

二、文體

緒論

テ誌ナシ。然ルニ又單ニ誌ト云ヒテ、即チ銘アリ。單ニ銘ト云ヒテ、誌アルモノアリ。題ニ誌ト云ヒテ、却テ是レ銘、題ニ銘ト云ヒテ、却テ是レ誌ナルモノアリ。皆別體ナリ。

古ハ葬ニ豐碑アリ、木ヲ以テ之ヲ爲リ、槨ノ前後ニ樹ツ。漢ヨリ以來始メテ死者ノ功業ヲ其ノ上ニ

作文法

は、墓碑文

刻ム。稍改メテ石ヲ用フ。則チ劉勰ノ所謂廟ヨリシテ墳ニ組クモノナリトス。晉宋ノ間ニ始メテ神道ノ碑ト稱ス。蓋シ堪輿家東南ヲ以テ、神道ノ碑トナス。碑ハ、其ノ地ニ立ツ。因テ之ニ名ヅク。其ノ體タルヤ文アリ。銘アリ。又或ヒハ序アリ。其ノ銘或ヒハ之ヲ辭ト云ヒ、或ヒハ之ヲ系ト云ヒ、

或ヒハ之ヲ頌ト云フ。之ヲ要スルニ皆銘ナリ。文ハ誌トス略相似テ、稍詳ヲ加フルナリ。

潘尼、潘黄門ノ碣ヲ作ルトキハ、則チ碣ノ作、晋ヨリ始マル。雷ノ碣ノ制、方趺圓首、五品以下ノ注之ヲ用フ。近世復タ高廣ノ等アリ。即チ其ノ制益ニ密ナリ。古ハ碑ト碣ハ本相通ズ。後世即チ官階

に、墓碣文

ノ故ヲ以テ、其ノ名ヲ別ツモ、其ノ實ハ大ニ相異ナルコトナシ。其ノ文タル碑ハ相類シテ、銘アルアリ、銘ナキアリ。唯、人ノ爲ストコロ、故ニ其ノ題、碣銘ト云フアリ。碣ト云フアリ。碣頌幷ニ序ト云フアリ。皆碣ノ體ナリ。

墓碣ハ、東漢ヨリ始マル。安帝元初元年ニ、謁者景

緒論

ロ、種類

ほ、墓表

君ノ墓表ヲ立ツ。厥ノ後、之ニ因ル。其ノ文體碑碣ト相同ヒ。官アルモ、官ナキモ、皆用フベシ。碑碣ノ等級制限アルガゴトキニアラズ。其ノ神道ニ樹ツルヲ以テ、故ニ又神道ノ表ト稱ス。其ノ文タル正アリ、變アリ、又阡表、殯表、靈表アリ、阡ハ、墓道ナリ。殯ハ、未ダ葬ラザルノ稱、靈ハ、

作文法

始メテ死スルノ稱、靈ヨリシテ殯、殯ヨリシテ墓、墓ヨリシテ阡ナリ。近世墓表ヲ用フ。故ニ墓表ヲ以テ、之ヲ括ルトハ、文體明辯粹折ノ記スル所ナリ。

大槻盤溪先生墓表

中村敬宇

先生諱ハ清崇、平姓、夫槻武字ハ、先生諱ハ清崇、平姓、大槻

結論

氏字ハ士廣盤溪ト號ス、通稱ハ平次考諱茂質玄澤ト稱ス、仙臺藩ノ醫員、實ニ我ガ邦蘭學者ノ祖タリ、先生昌平黌ニ學ブ、十年後東海幾內及ビ長崎ニ歷遊シ、筆ヲ下スヿ敏妙、才華富贍、中外名流ノ推重スル所トナル、其ノ京師ニ客タ

作文法

ルヤ、賴山陽之レヲ山紫水明樓ニ延キ、對酌文ヲ論ズ、山陽人ニ於テ許可少シ、特ニ先生ノ才ヲ奇トス、一見舊ノ如シ、世傳ヘテ佳話トナス、天保壬辰先生三十二歲、藩侯擢ンデ、儒員ニ列ス、季子ヲ以テ別ニ家ヲ起シ、江戸ニ住シテ侍

講トナル、弘化嘉永ノ間、先生夙ニ西法砲術ヲ講シテ、其ノ蘊奥ヲ究ム薩藩之ヲ師トス、嘉永癸丑米國使節伯里始メタ至ル、先生建議シ、開港ヲ主張ス、是ノ時、議者多ク攘夷ヲ主張ス、朝野囂々人或ハ先生ノ爲メニ之レヲ危ム、先生夷然文久

壬戌仙臺ニ移リ、養賢堂ノ學頭トナリ、尋デ致仕ス、明治戊辰ノ亂與羽諸藩合從シテ兵ヲ舉グ、仙臺之レガ盟主トナル、先生ヲ起シテ軍國文書ノ事ヲ司ラシム、事敗ルニ及ンデ、此ヲ以テ獄ニ下サル、既ニシテ而シテ赦サル、時ニ年七十、辛

2、種類ト其ノ例

未東京ニ住ス、文酒談讌優遊自カラ適ス、世騷壇ノ老將ヲ以テ之レヲ目ス、戊寅六月十三日病デ歿ス、其生享和辛酉五月十五日ヲ距ル、年七十八ヲ得、高輪ノ東禪寺ニ葬ムル、先生軀幹長壯性情眞率公ニ奉ズル謹愼、身ヲ持スル清儉、人ト

藹然親ムベシ、然ルニ大事ヲ論ズルニ至ツテハ則チ侃々回スベカラザル者アリ、天才清絶晩年ノ詩文簡淡雜潔ニ歸ス、嘗テ曰ク吾經ヲ讀ム、自カラ手眼ヲ扶出ス、文章ハ則チ葛西因是、松崎慊堂ニ得ルアリ、詩ハ則チ梁川星巖ニ得ルアリ、其

ノ前輩ヲ推重シテ而ンテ高ク自カラ標置セザル此ノ如シ、著孟子約解、古經文視、近古史談寧靜閣詩文集等數十種アリ、配大野氏長子修二、次文彦各家ヲ成ス、二子余ト先生ト舊アルヲ以テ請フテ其ノ墓ニ表ス先生ノ事蹟具ニ家傳ニ載ス、茲ニ其ノ大要ヲ揭グルコト斯ノ如シ。

青木外堂墓碣銘

西毅一

常山ノ北、旭水ノ東、山アリ、鬱乎トシテ葱々風色佳絶名ケテ櫂山ト云フ、我ガ前備上道郡ニ屬ス、友人青木升堂君ヲト葬スルノ處ナリ、君諱ハ守秉、通稱ハ秉太

郎、升堂ト號ス、父諱ハ順一、母某氏、君ハ其ノ第三子、弘化某年某月日疾ヲ以テ歿ス、享三十有一君刑官トナリ、北海道函館ニ在テ、郡政釐革以テ歸リ、上道郡長ニ充ツ、未ダ其ノ才ヲ盡サズ、一朝溘然ス、人皆悼惜ス、人ト爲リ眞率溫落志氣アリ、擊劍ヲ好ム、又書畫ヲ善クス、父母ニ事ヘテ而シテ孝兄弟ト友、余君ト同窓書ヲ讀ミ、憂樂之レヲ同フス、其ノ交リ骨肉モ啻ナラズ、又嘗テ同ク清國ニ遊ビ、虎邱太湖ノ勝ヲ探リ、楓橋塞山ノ踰ヲ尋ヌ、畫趣神韵益々妙境ニ入ル矣、余

2、

客歳再ビ清國ニ遊ブ、君自畫ノ山水ニ題シ行ヲ送ッテ曰ク、君ガ志ヲ知ル者ハ唯吾、吾ガ志ヲ知ル者ハ唯君ト、今君ノ墓ニ銘スル者ハ、余ニ非ズシテ而シテ誰ソヤ銘ニ曰ク。

志業不就、經幾辛
艱慰君靈者、維水
維山。

中村鶴藏壽碑

光明寺水賓

俳優中村鶴藏、故鶴藏號秀鶴ノ弟子ナリ。滑稽ヲ以テ名ヲ博ス。蓋シ近代ノ奇俳優ナリ。鶴藏幼名ハ房二郎。江戸山谷鄉ノ團粉店幸助ノ男。稍長ジ。父之レヲ菜果館鶴岡氏ニ托ス。房二性諧謔ヲ善

クス。容貌他ノ奇ナク。唯目皆低レテ八字形ヲ爲シ。頗ル人ノ笑ヲ博ス。房二商業ヲ喜ビス。一日舗主ノ金五兩ヲ攫取シ。飄然トシテ去リテ京師ニ遊ブ。主人以テ意トセザリキ。房二の京阪間ニ在ルヤ。備ニ艱難ヲ嘗メ。一トシテ成ル所ナシ。遂ニ姉川仲藏ニ就キテ演技ヲ學ブ。鬼久藏ト稱ス。鬼久藏師ニ從ヒ。劇ヲ藝備防長豐筑ノ間ニ演ズ。到ル處ノ人未ダ以テ奇トセズ。安政二年江戸ニ還リ。始メテ秀鶴ニ見ユ。請ヒテ弟子ト爲リ。雁八ト改稱ス。雁八多藝。歌舞管絃。皆能ク

セザルナク。又皆奇ナラザルハナシ。技モ亦愈出デ、奇ナリ。場ニ上ル毎ニ。看客トシテ捧腹絶倒セシム。是ニ於カ低徊雁八ノ名都下ニ噪ク。風流才子ニシテ其人ヲ知ラザレバ以テ耻トナス。明治ノ初。土ノ容堂侯。雄偉ノ才ヲ以テ。一世

ろ、例……

3、

ヲ睥睨シ。豪華自ラ喜ビ。盛ニ聲樂ヲ張リ。長夜ノ飲ヲナス。其ノ交ル所盡ク當世ノ豪傑ナリ。而シテ雁八常ニ河原崎權之助ト共ニ侍ス。權之助ハ今ノ梨園ノ巨擘、市川團洲ナリ。幾モナク師ノ名鶴藏ヲ襲フ。聲名益藉甚。其ノ技モ亦老成。滑稽

中天然ノ風致ヲ存シ。最モ識者ノ鑒賞スル所トナル。明治十八年四月 聖駕井上伯ノ邸ニ幸スルヤ。新富部ヲシテ技ヲ奏セシム。鶴藏亦與ル。上大ニ笑ヒ以テ奇トナス。鶴藏常ニ人ニ語リテ曰ク。鄙技ヲ以テ 天覽ヲ辱クス。光榮焉レニ

過グルハナシト。感泣已マズ。諧謔ヲ善クスルモノ感泣ヲ善クスルモ亦奇ナリ。余性甚ダ劇ヲ好ム。團洲ノ高雅。鶴藏ノ奇逸ヲ以テ。梨園ノ双絶トナス。常ニ喜ビテ二優ト遊ル。又嘗テ秀鶴ト交リ。鶴岡氏ト相識ル。頃者鶴岡氏鶴藏

ノ爲メニ。墓兆ヲ下谷ニ買ヒ。壽碑ヲ建テント欲ス。一日酒間鶴藏余ニ語ルニ此ノ事ヲ以テシ。且ツ碑文ヲ作ランコトヲ請フ。嗚呼。鶴藏未ダ死セズシテ碑ヲ建ツ既ニ奇ナリ。鶴藏ノ死余ト孰レカ先後ナルヲ知ラズ。而シテ余ニ文ヲ請フモ亦

奇ナリ。是レ辭スベカラザルナリ。鶴藏ハ天保三年ニ生ル。今年五十九。伊賀屋ノ女阿勝ヲ娶ル。子ナシ。細江氏ノ子歌二郎ヲ養フ。歌二郎幼ヨリ父ニ從ヒ技ヲ學ビ稍長ズ。業ヲ繼グヲ欲セズ。志ヲ立テ書ヲ讀ム。頃又余ニ從ヒテ法律ヲ學

ブ。頗ル他日ニ望アリ。亦奇ト謂フベシ。

友人ヲ祭奠スルノ辭ナリ。トハ文體明辯粹抄ニ見エタリトイヘドモ、必ズシモ、然ルニアラズ。其ノ例乏シカラズ。之ヲ要スルニ、言行ヲ讃シ、哀傷ノ意ヲ寓センコトヲ欲ス。蓋シ文ノ變ナリ。其ノ辭ニハ散文アリ、韻

い、意義

語アリ、儷語アリ其ノ韻語ノ中、散在、四言、六言、雜言、騷體、儷體ノ相同ジカラザルアリ。又其ノ辭ハ、浮華ニシテ、實ナク、情醇シテ宣バザガ如キハ、此ノ體ニ切ナルモノニアラズ。

祭亡妹阿佐登文　坂井虎山

汝恭順柔和、人コレニ及ブナシ。勞シテ倦ヲ告ゲ

結論

ズ。病ミテ癒ヲ言ハズ。曾テ乳腫ヲ患フ。其ノ痛モ亦奇ナルニ。紡績シテ自若タリ。問ヒテ始メテ知ル。夏モ涼ニ就カズ。三冬モ單衣吾レ意ニ之レヲ憐ム。亦父母モ慈ム。今日ノ苦。逸ハ他時ニ在ラン。何ゾ謂ハン奄忽トシテ。長ニ世ト辭センコトハ。生レテ年十八。未ダ嘗テ扉ヲ出デザリシニ。遽ニ遠鄉ニ客タリ。乃チ死ヲ以テ歸ル。嫁シテ遠ク適クハ。乃チ事ノ宜シキモ。嫁ニアラズシテ遠キハ。孰カ其ノ悲ニ勝ヘン。死ニ先ダツ數月。書アリテ相貽ル。我レ往キテ之レヲ見シニ。歡笑怡々タリ。我レ率キ歸ラズ。歸ルニ期アリ。遽ニ病ヲ以テ告ゲ。復醫スベカラズ。二親蒼黃トシテ。

作文法

ろ、例……

路ニ就キテ馳セ。纔ニ瞑セザルニ及ブ。聲氣絲ノ如ク。父母ノ名ヲ呼ビ。即チ永ク別離ス。人誰カ死ナカラン。汝ノ如キハ亦稀ナリ。彼ノ蒼タル天。哀慟スルモ追フベケンヤ。我ノ悍戾ナルモ。神明ノ庇フ所。反テ弟妹ヲシテ。代ハリテ其ノ災ヲ受ケシム。汝ガ病ハ我ハ致ス。汝ノ死ハ我レ爲ス

江河ハ竭クルアルモ。斯ノ恨ハ涯ナシ。嗚呼哀イ哉。原漢文

吊ハ、終ヲ問フナリ。傷ムナリ、憫ムナリ。生ヲ吊フヲ嘻ト云ヒ。死ヲ吊フヲ吊ト云フ。故ニ吊文ハ、慰ムルヲ主トスルヲ以テ、韓愈ノ十二節ヲ祭ル文ニハ、其ノ文中、今吾建中ヲシテ、汝ヲ祭リ、汝ノ孤ト汝ノ乳母トヲ吊

緒論

イ、意義

セシムト。即チ此ノ吊セシムルト云フハ、肅清ニ所謂唱スルコトヲ云フ。之ヲ一同ニ云フトキハ、吊ハ、悔ヲ述ブルコトナリ。愁傷ノ極ト云フニ同ジ。且ツ吊文ハ目下或ヒハ同輩ニ對スル場合ニシテ、尊長スベキ人ニハ吊文ト書クハ、穩當ナラザルナリ。彼ノ古戰場ヲ吊フト云ヘルガゴトキハ、

作文法

其ノ無縁佛ヲ吊フモノ、吊文ニシテ、場所ヲ吊フモノニアテズ。吊文ノ祖ハ、賈誼ノ屈原ヲ吊フ文ニ始マル。

吊屈原文　賈誼

忝シク嘉惠ヲ承ケテ、縁ヲ長沙ニ待ツ。仄ニ聞ク、屈原自カラ汨羅ニ湛メリト湘流ニ造托シテ敬デ先生ヲ吊フ、世ノ極リ罔キニ遭フテ迺チ厥ノ身ヲ隕

緒論

文ル、弔

ス、鳥虚哀イ哉、時ノ不祥ニ逢ヒ、鸞鳳伏シ竄レテ鴟梟翔ス、闒茸尊顯セラレテ讒諛志ヲ得、賢聖逆ニ曳カレテ、方正倒マニ植テリ、隨夷ヲ溷レリト謂ツテ跖蹻ヲ廉ナリト謂ヒ、莫耶ヲ鈍シト爲シテ鉛刀ヲ銛ト爲ス、吁嗟默々タル生ノ無故ナルコト周鼎ヲ斡シ、棄テ康瓠ヲ寶トシ罷牛に騰駕シテ

作文法

ロ、例……

蹇驢ニ驂ス、驥ハ兩耳ヲ垂レテ鹽車ニ服シ章甫ハ履ニ薦ケリ漸ク久シカルベカラズ、嗟若シ先生獨リ此ノ咎ニ遭ヘリ、詩ニ曰ク已ヌルカナ、國其レ吾ヲ知ル事ナシ子獨リ壹鬱シテ其レ誰ト語ラム、鳳縹々トシテ其レ高ク逝ク夫レ固ニ自ラ引テ遠ク去レリ九淵ヲ襲ネタル神龍ハ汹トシテ淵タ潛レテ

以テ自ラ珍トシ、蠋獺ニ
価イテ以テ隱處スレバ夫
レ豈ニ蝦ト蛭蟮トニ從ハ
ンヤ、世ブ所ハ聖ノ神德、
濁世ニ遠カッテ而シテ自
ラ臧ル麒麟ヲシテ係ギテ
羈スベクバ豈ニ夫ノ犬羊
ト異リト云ハンヤ、般ッ
テ紛々トシテ其レ此都ニ
離ハリ、亦夫子ノ故ナリ、
九洲ヲ歷テ其君ヲ相ケン
トスレバ何ゾ必ラズシモ

此都ヲ懷ハン、鳳凰千仞
ニ翔ケルモ德輝ヲ覽テハ
之ニ下リ細德ノ險微ヲ見
テハ遙カニ增擊シテ之ヲ
去レリ、彼ノ尋常ノ汗瀆
豈呑舟ノ魚ヲ容レンヤ。
江湖ニ横タハルノ鯨鯨固
ヨリ將ニ螻蟻ニ制セラレ
ントス。

辨ハ、判別ナリ。蓋シ其
ノ言行ノ是非、眞僞ヲ執
リテ、以テ大義ヲ斷ズル

緒論

い、辨……

ナリ。其ノ章法至當、不易ノ理ニ基キテ、反覆曲折ノ語ヲ以テ之ヲ發スルニアラザレバ、未ダヨク工ナルモノニアラズ。

ろ、解……

解ハ、釋ナリ。疑アルニ由リテ之ヲ解釋スルナリ。其ノ意、疑惑ヲ辨釋シ、紛難ヲ解剖スルヲ以テ、主トナス。

は、策……

策ハ、謀ナリ。三類アリ。天子自カラ制ヲ稱シテ、士ニ問フヲ制策ト云ヒ、有司ノ試策シテ、士ニ問フヲ試策ト云ヒ、士庶人ノ著策シテ上進スルヲ進策ト云フ。對策トハ、士人ニ出デ、策問トハ、上人ニ達スルナリ。

箴ハ、戒ナリ。蓋シ醫者、箴石ヲ以テ、病ヲ刺ス。故ニ諷刺スルトコロアリテ、其ノ失ヲ救フモノヲ云フ。多クハ君上ノ過

作文法

ヲ、辨、策、箴、規、戒、啓、狀疏等

緒論

に、箴規戒

失ヲ箴ス。蓋シ古今興衰理亂ノ故ヲ反覆シ、以テ警戒ヲ垂レ、讀者ヲシテ暢然自カラ寤ンゼザルノ心アラシムベシ。規ハ、其ノ缺失ヲ規シ、敢テ越エザラシムルヲ云フ。臣下自カラ相戒メ、亦同僚ノ行誼ヲ規ス。何レモ親愛、友誼ヨリ出ヅルモノナリ。戒ハ、警敕ノ辭、字、本、誡ニ作ル。亦箴ノ類ナリ、又女戒アリ、女ヲ嫁ストキハ、作リテ之ヲ戒ム。

作文法

は、狀疏

狀ハ、言ヒ陳ブルナリ。亦多ク儷語ヲ用フ。疏ハ、言ヒ布クナリ。散文、儷語ヲ通用ス。

へ、表

表ハ、標ナリ、明ナリ。事ノ緒ヲ標着シテ、明白ナラシメ、以テ上ニ告グルモノナリ。又墓表ニハ其ノ人ノ行事ヲ書キ標ハ

緒論

スナリ。

其ノ言ヲ舒布シテ之ヲ簡讀ニ書スルモノナリ。大小二體アリ。史遷任安ニ答ルノ書ハ、大東ノ祖ニシテ、楊軍、孫會宗ニ答フルモノハ、小牘ノ祖ナリ。共ニ日用往復文ノ雜ナルモノト知ルベシ。

與久保仲通書

柴野栗山

昨夜繼華如何ナル賞

作文法

い、意義

ナリシコトヲ知ラズ。僕體氣頗ル佳、第下利未ダ斷エズ苦トナス。新松ヲ植エテ南軒ノ第二楹ニ當ツ。月明ナレバ影席上ニ落チテ。筆硯ノ間ニ婆娑シ。茅屋一段ノ佳趣ヲ添フ。昨夜之レヲ愛シテ寢ヌル能ハズ。酒ヲ思フモ錢ナシ。幸ニ讃奴

1.

熟米ヲ作ルコトヲ解ス。又枯葉ヲ拾ヒテ茗ヲ烹ル。舊林ノ景象ニ彷彿タリ。塊然トシテ夜分ニ至ル。病懷頓ニ爽ナルヲ覺フ。今晴景月色。意フニ亦當ニ昨夜ニ減ゼザルベシ。此ノ佳興獨饗クルニ忍ビズ。若シ他冗ナクンバ。晩間過ラレヨ。

松子ヲ熟キ大蛤ヲ燒クノ外以テ禮ヲナスコトナン。且ツ今宵明後宵ヲ可トナス。之ヲ過ギナバ則チ月ナシ。惜ムベシ。詩一首錄シ往ク。亦以テ興懷ヲ觀ルニ足ラン。伏シテ惟フニ斧政セヨ。彥再拜シテ啓ス。十四日。原漢文

答正夫書

結論

ろ、例……

阪井虎山

槙頓一首ス。向ニ足下ハ硯ヲ餽ルコトヲ約ス。硯ハ、方圓二枚、而シテ足下ハ、其ノ方ナルモノヲ欲スル、殊ニ甚シ。槙當時亦此レヲ以テ、之ニ呈スルヲ約ス。而シテ今乃チ餽ルニ其ノ圓ナルモノヲ以テス。想フニ足下必

作文法

ズ怪マン。我レ足下ノ文字ヲ觀スニ。方整ハ餘アリ。而シテ圓活ハ足ラズ。今圓ナルモノヲ餽ルハ。足下ノ文體此ノ如クナランコトヲ欲スルナリ。然レドモ。此ノ硯圓ニ止ラズ。亦方ナル處アリ。是レ又足下ノ時アリテ方。時アリテ圓一體

結論

ニ拘ラザルヲ欲スルナリ。噫。是レハ強説ナリ。所謂方ナル者ハ。即チ家君ノ舊友石原某ガ。曾テ以テ家君ニ餽ルナリ。

2.

其ノ人今千里ノ外ニ在リ。其ノ死其ノ生絶エテ聞耗ナシ。故ニ家君此ノ硯ヲ愛シテ曰ク。我レ此ノ硯ヲ見ルコト。猶其ノ

作文法

人ヲ見ルガ如キナリト。向ニ楨知ラズ。故ニ誤ノテ足下ト約スルノミ。之レヲ要スルニ。二ノモノ皆佳品ニアラズ。而シテ圓ナルモノハ其ノ質頗ル小ナリ。想フニ其ノ尊意ニ充タザルコト必セリ。然レドモ。楨平時未ダ嘗テ筆硯ヲ以テ人ニ與ヘ

ズ。之レヲ愛ムニアラザルナリ。與フト雖モ益ナキヲ以テナリ。今以テ足下ニ與フ。是レ我ノ意大ニ足下ニ望ムアルナリ。詩ニ曰ク女ノ美タルニ非ズ。美人ノ貽ナレバナリト。足下若シ其ノ意ヲ取リテ。其物ヲ略サバ。則チ幸甚幸甚。拙詩意一首。左右ニ附呈ス。只以テ一意ヲ資クルノミ。不一。原漢文

い、意義

詞人著ストコロノ離文ナリ。其ノ事ニ隨ヒテ、名ヲ命ジ體格ニ落ナザルヲ以テ、故ニ之レヲ雜著ト云フ。然シテ稱名離ルトイヘドモ、其ノ義理ニ本ヅキ、性情ニ發スレバ、卽チ致一ノ道ナリ。劉勰ノ所謂並ニ體要ノ詞ニ歸

シ、討論ノ域ニ入ルトハ正ニ之ヲ謂フ。左ニ種々ノ例ヲ掲ゲントス。

水喩　齋藤竹堂

水ニアラザルコトナキナリ。一杯ノ水ト江海ノ水ト異ナルコトナシ故ニ杯ニ在レバ。則チ其ノ杯水タルヲ知ル。諸ヲ江海ニ投ズレバ。則チ江海ノ水ヲ見ルノミ。

復杯水ヲ求メント欲シテ得ズ。油ト曰フモノアリ。猶之レ水ナリ。

而シテ一點ノ油ヲ水中ニ注グトキハ。汎々然トシテ舟ノ河ニ在ルガ如シ。數日ヲ經ルモ未ダ嘗テ混ズルコトヲ成サズ。蓋シ二者其ノ形ヲ同ジクシテ其ノ性ヲ異ニ

ソ、雜著

1.

ス。故ニ相容レザルヤ此ノ如シ。噫。是レ取リテ以テ人ニ喩フベシ。夫レ圓顱ニシテ横目ナルハ。皆人ナリ。然レドモ。其ノ心ハ則チ君子小人分カル。君子ニ寛裕ナルアリ。強毅ナリ。狷介ナルアリ。和厚ノ同ジカラズシテ。其小人ト居

ラバ。則チ必ズ君子ト君子ト相合ヒテ。偕ニ小人ヲ拒ムハ。其性則チ然ルナリ。然ラバ則チ君子ノ性ハ水ナリ。小人ノ性ハ油ナリ。油ノ水ニ容レラレザルヤ固ヨリ宜ナリ。而シテ今水ト水ト。或ハ反目相視テ曰ク。彼ヤ一杯ノ水ナリ。我ヤ江

緒論

ろ、例……

海ノ水ナリ。彼レ安ンゾ我ニ及バンヤト。將ニ且ツ其ノ己ト類ヲ同ジクスルヲ忘レテ。以テ之レヲ汕視セントスルハ。油ノ後ニ笑フヲ知ラザルナリ。吾レ故ニ說ヲ作リ。以テ天下ノ水タルモノヲ戒ム

示三上仲敬

柴野栗山

作文法

力人ノ力ヲ養フヤ、飯ノ生熟。度ヲ失スレバ食ハズ。魚ノ骨多キハ食ハズ。娼妓ノ美ヲ養フヤ。日ニ豆腐ノ滓ヲ食ヒ。以テ其ノ肌膚ヲ澤ニスルヲ悅ブ。又食ヲ減ジ飢ヲ忍ビ。以テ其ノ腰肢ヲ纖細ニス。夫レ力ノ用タル。一搏ノ勝ヲナスニ止ル

緒論

ノミ。美ノ用タル。一夫ノ悅ヲナスニ止ルノミ。而モ力人娼妓ノ智ヲ以テ。猶能ク自ラ惜ミ自ラ愛スル乃チ爾リ。大丈夫往ヲ繼ギ來ヲ開キ。出デ、ハ則チ此ノ民ヲ仁壽ノ處ニ躋シ。則チ斯文ヲ將來ニ傳ヘントス。今乃チ一醉一飽ノ快ヲ艶ミ。以テ性名ヲ危クスルモノハ何ゾヤ。孟子ノ曰ク。飲食ノ人。則チ人之レヲ賤ムト。蓋シ娼妓力人ニサヘ是レ如カザルヲ以テナリ。原漢文

2.

作文法

イ、意義

文ハ、意思ヲ發表スルモノナルガ、唯、普通ノ辭句ヲ並ブルノミニテハ、文トナラズ。故ニ、其ノ文ニ適當ナル修辭ヲ加ヘザルベカラズ。修辭トハ、文辭ヲ修飾スルヲ云フ。

文ノ勢力トハ、優儷トヲ增サンガタ

結論

一、意義

メニ、種々ノ方法ヲ用フルコトアリ、即チ譬喩法、例句法又ハ其ノ他特別ノ辭法ヲ以テスルコトアリ。是等ノ辭詞ノ特殊ナル措辭ヲナスコトヲ轉義又ハ辭法ト云フナリ。

イ、直喩

1. 意義

直ニ入ッテ譬喩ヲナスモノヲ云フ、即チ短刀直入以テ其ノ譬喩ヲ述ベルナリ。

十畝ノ外、桃花林ヲ爲シ、紛トシテ恰モ終霞ヲ望ムガ如シ。

2. 例…

數似ノ二物ノ胸中ニ浮ベ、彼此相比較スルモノニシテ、直喩ト同ジノモノ、如シト雖モ、明ラカニ記サバ。倉蒼スル樣ニ記載スルナリ。

作文法

ロ、轉義

ろ、隱喩

1. 意義

緒論

2. 種別

2. 例……

君子ノ德ハ、風ナリ。小人ノ德ハ、草ナリ。草互ニ風ヲ加フレバ、必ズ偃ス。

譬喩ノ事物ト本文ノ事物トヲ二ツナガラ表ハスコトナクシテ二物ヲ混同シテ、一物トナシ、之

作文法

は、混喩

1. 意義

ヲ記述スルモノナリ。故ニ冷膽熱心、深重ト云フガゴトク、物質ヲ形容シタル物ヲ移シテ、心ノ上ノ形容トスルコトヲ云フ。

2. 例……

屍ヲ山野ニ曝サバ、曝セ、浮名ヲ西海ノ波ニ流サバ、流セ、或ヒ

三、修辭

緒論

1.意義

無心ノ草木虫魚ヨリ土地ノ如キニ至ルマデ、之ヲ人ニ見立テ、生命アリ、精神アルモノトシテ、取扱ノモノナリ。最モ詩人ノ喜ビ用フル

ハ磯邊ノ浪枕、八重ノ潮路ニ日ヲ送ラン。

に、擬人法

モノニシテ、最モ巧ナルモノナリ。

2.例…

春雨霏々トシテ、煙ノゴトク、海棠ハ、眠レル美人ノ如ク、之ニ反ッテ桃樹ノ梢ハ目覺シク、紐解キタリ。

作文法

1.意義

轉義ハ、言語ノ意義ノ轉化ナリ。辭樣ハ、其ノ順序ノ變化ナリ。辭樣ニ

格論

モ亦其ノ種類アリ。

感情ノ甚大ナルトキニアツテハ、單ニ普通ノ言語ヲ以テ、之ヲ表現スルモ、其ノ効果少ナカルベシ。故ニ斯クノ如キ場合ニ於イテハ、重言ヲ以テ、之ヲ表現スルトキハ、

1. 意義

作文法

大ニ感動セシメ、又文ヲシテ聲調ヲ整ヘシムルトキニモ用ヒラル。

2. 例…

君、君タラズンバ。臣、臣タラズ。

文ヲ飾ルガタメニ、句ヲ對ニシテ相用フルモノヲ云フ。

1. 意義

い、重言

緒論

ろ、駢體

2.例…

沙羅雙樹ノ花ノ色ハ、盛者必滅ノ理ヲ顯セドモ、徒ニ香ヲ愛ヅルモノハ、風雨ノ過ギナンコトヲ妬ムガ故ニ、偏ニ延年ノ春ヲ契レリ。

感情ノ激昂ニ從ヒテ、文ノ語調ヲ變化シ、突然

作文法

は、頓旋

1.意義

ニ人稱等ヲ用ヒテ、現在ノコトク說話スルモノヲ云フ。

我今、汝ノ生命ヲ承ケンコトヲ欲ス。是レ汝ガ予ニ約セルトコロニアラズヤ。

2.例…

是汝ノ豫メ期スル所ナリ。（中略）之ニ依リテ、

結論

八、辭樣

に、直現

1. 意義

汝ト共ニカ逝カン。予ノ逝カントスルハ、義ニ於イテ辭セザルトコロナリ。

現在動詞ヲ用ヒテ、現ニ其ノ場ニ讀者アルガ如ク記述スルヲ云フ。

2. 例

武士の矢文ックロフ籠手ノ上ニ

作文法

は、倒裝

1. 意義

文勢ヲ優越ナラシメ、聲調ヲ圓滑ナラシムルガタメニ句ヲ顚倒シテ用フルモノヲ云フ。

2. 例…

汝、速ニ行キテ、事ヲ圖レ。後ルヽコトナカレ。

嗚嗟急遽ノ場合

蔽タバシル那須ノシノ原。

緒論

2、種類

へ、豫言

1.意義　ヲ表ハスニハ最モ適切ナル詞ナリ。

2.例…　腰ニサシタル小刀ヲ拔クヨリ早ク切リ付ケタリ。

と、豫言

1.意義　心裡ニ實際疑フトコロナシトイヘドモ語勢上疑問トスルモノヲ云フ。

作文法

ち、對照

1.意義　向ヲ對照シテ用フルモノヲ云フ。

2.例…　寧ロ雞口トナルモ、牛後トナルナカレ。

2.例…　斯クノ如キ事ニシテ汝ノ知得セザルハナカラント思ハルヽナリ。

大ナル刺激ヲ與

緒論

り、漸層

1. 意見

フル故ニ、文ヲ疊ミ掛ケテ、漸次ニ其ノ力ヲ增ストコロノ方法ヲ云フ。

2. 例……

初ニ勢ヨク鳴キタリシ虫モ、時ノ寒クナルニ從ヒテ、聲モ切々ニ哀ニハカナク聞ユルヴ、實ニ悲シキモノヴカシ。

作文法

イ、概說

文ヲ作ルハ、容易ノコトニアラズ。殊ニ名文ヲ作ルハ、到底一朝一夕ノ業ニアラズ。是レ文法ニハ、語格ナリ、文法ヨリ、之ヲ脫スベカラズ。而シテ之ヲ滿足ナラシメントスルハ、誠ニ難キ哉。然レドモ、自カラ其ノ法ヲ備ハルモノアリテ、古人ハ、之ヲ敎ヘリ。今參考トシテ、其ノ說ノ一斑ヲ示サン。

ロ、顏之推ノ說

文章ヲ爲サンコトヲ學ベバ、先ヅ親友ニ謀リテ、其ノ評論スルモノヲ得テ、然ル後、手ヲ出シ、愼ンデ心ヲ師トシ、自カラ任ジテ笑ヲ婦人ニ取ルコト勿レ。又曰ク、文章ハ、當サ

ニ理致ヲ以テ、心胸トシ、氣調ヲ筋骨トシ、事義ヲ皮膚トナシ、華麗ヲ冠曼トナスベシ。

文ハ、意ヲ以テ、主トス、主ノ明ラカナルトキハ、則チ氣勝ツ。氣ノ勝ツトキハ、則チ鏘洋、精彩之ニ從ツテ生ズ。

文章ハ、體義ヲ以テ、先トシ、精工之ニ次グ。其ノ體試ヲ失セバ、浮聲切響黄ヲ抽キ、白ニ對シ、其ノ精工ヲ極ムト。之ヲ文ト云フベカラズ。

文ヲ作ルコト、他ノ術ナシ。唯書ヲ

ろ、田錫ノ説

は、倪思ノ説

四、要訣

に、歐陽修ノ説

讀ムコト、多キトキハ、則チ之ヲ爲シテ自カラ工ミナリ。又曰ク文ヲ爲ルノ法ハ、唯熟スルニアルノミ。變化ノ體、皆熟所ヨリ生ズ。又曰ク、文ヲ作ルノ體、初メハ奔馳センコトヲ欲ス。久シウシテ當サニ楷節シテ簡重嚴正ナラシム。時ニ或ヒハ放肆ヲ以テ、自カラ舒ベ、一體ヲナスコトナキトキハ、則チ善ヲ盡サン。

は、蘇軾ノ説

凡ソ文字小町ノトキ、須ク氣象峰巒宋色絢爛ナラシムベシ。漸ク老テ、漸ク熟セバ、乃チ平坦ヲ造ス。其ノ

實ハ、平坦ニアラズ、絢爛ノ極ナリト。

呂本中ノ説へ、

呂本中曰ク、或ヒハ精ヲ勵マシ、思ヲ深ウシテ、卽チ筆ヲ下サバ。或ヒハ事ニ逢ヒ、感ニ依リ、時々ニ擧揚ス。工夫ハ、一ナリ。古ノ作者ハ、正ニ是クノ如キノミ、唯、鑿空强作シテ、牽强ニ出ヅベカラズ、小兒ノ學ニ付キ、俯シテ課程ニ就クガ如キノミ。又曰ク、近世歐陽公、文ヲ作ル。先ヅ壁ニ貼ス。時ニ竄定ヲ加フ。終ニ篇一字ヲ留メザルモノアリ。

李塗ノ説と、

李塗曰ク、文字ハ、須ラク數行整齊ノ處アルベシ。須ラク數行整齊ナラザルトコロアルベシ。意對スルトコロ、文却テ必ズシモ、對セバ、意必ズシモ對セザル處、文却テ著對スベシ。

王也自ノ説ち、

首尾開闔、繁簡奇正、各々其ノ度ヲ極ムルトキハ、篇法ナリ、抑揚頓挫、長短節奏、各其ノ致ヲ極ムルハ、奇然ナリ。點綴關鍵金石綺綜、各々其ノ造ルコトヲ極ムルハ、字法ナリ。篇ニ百尺ノ錦アリ。句ニ平鈎ノ弩ア

緒論

ロ、諸大家ノ說

リ、陳洪謨ノ說

リ字ニ、百煉ノ金アリ。

文ハ、體ヲ辨ズルヨリ先キナルハナシ。體正シウシテ後、意以テ之ヲ經シ、氣以テ之ヲ貫キ、辭以テ之ヲ飾ル。體ハ、文ノ幹ナリ。意ハ、文ノ帥ナリ。氣ハ、文ノ翼ナリ。辭ハ、文ノ華ナリ。體愼マザレバ則チ文麗ル。意立タザルトキハ、則チ文舛フ。氣昌ナラザルトキハ、則チ文萎ム。辭修メザルトキハ、則チ文蕪アル。四ノ者ハ、文ノ病ナリ。是ノ故ニ、四病去テ、斯ニ工ナリ。

作文法

ヌ、唐順之ノ說

漢以前ノ文ハ、未ダ嘗テ法ナクンバアラズ。而シテ未ダ嘗テ法ナクンバアラズ、而シテ未ダ嘗テ法アラズ。法ハ、無法ノ中ニ寓ス。故ニ、其ノ法タルヤ、密ニシテ而シテ窺フベカラズ。唐ト近代トノ文、法ナキコト能ハズシテ、而シテ能ク毫釐モ、法ヲ失ハズ。故ニ、法タルヤ、嚴ニシテ犯スベカラズ。密ナルトキハ、則チ無ニ疑ハル。所謂法、嚴ナルトキハ、即チ法アリテ、而シテ窺フベキニ疑ハル。然リ而シテ文ノ必ズ法ア

リ。自然ニ出デ、而シテ易フベカラザルモノハ、則チ異ナルベカラズ。文ヲ爲ル、必ズ古ヲ師トシ、人ヲシテ之ヲ讀ンデ、師トスルトコロヲ知ラザラシムルハ、善ク古ヲ師トスルモノナリ。韓孟ヲ師トス。今韓文ヲ讀ンデ、其ノ孟タルヲ見ズ。歐陽修ハ韓ヲ學ブ。其ノ韓タルヲ覺エズ。若シ規倣ニ拘々トシテ、邯鄲ノ步ヲ學ビ、軍人ノ顰ニ倣フガ如クナラバ、則チ陋シ。所謂其ノ意ヲ師トシテ、其ノ辭ヲ師トセズ。是レ文ヲ爲ルノ

王ノ說

最妙訣。

歸震川說(二)

文章ハ、理ヲ以テ主トス。理得テ辭順ナレバ、文章自然ニ出群拔萃ナリ。程伊川ノ周易傳ノ序、歐陽明ノ博約說ノゴトキハ、是皆儀理ノ文ナリ。早ク聖道ノ微ヲ見ル。

歸震川說(三)

文ヲ作ルハ、必ズ氣ヲ養フニアリ。氣、中ニ充ツルトキハ、則チ文、外ニ溢ル。蓋シ然ルヲ期セズシテ、而シテ然ルモノアリ。諸葛孔明ノ前出師ノ表、胡澹菴ノ高宗ニ上ル封事ノゴトキ、皆沛然トシテ、肺肝ノ中ヨ

緒論

か、ノ歸震川説(三)

リ流出シ、文ヲ期セズシテ自カラ文ナリ。豈ニ其ノ正氣ノ發スルトコロニアラズヤ。孔明ノ後出師ノ表モ亦之ヲ參照スベシ。

文章ハ、識ニアラザレバ、以テ其ノ才ヲ厚ウスルニ足ラズ。才ニアラザレバ、以テ其ノ用利スルニ足ラザルナリ。才識共ニ備ハレバ、文章自然ニ人ヨリ高シ。司馬子長ノ太史公ノ自序ハ、即チ史記ノ大意ヲ發シ、其ノ辨駁ノ才淹貫ノ識、盡ク此ニ見ハル。

作文法

イ、意義(和文ヲ漢文ニ、又漢文ヲ和文ニ譯スルヲ云フ。

漢文ヲ和文ニ譯スル法ヲ云フ。是ハ其ノ原文ノ興味ヲ失ハザル樣ニナスコトノ甚ダ困難ナルモノナリ。是レ漢文ハ、棒讀ニ讀ミナスニ味アルニ反シ、之ヲ和文ニ譯スルトキハ、既ニ文勢ヲ損ジテ、元ノ味ノナキモノナリ。故ニ譯文ハ唯、其ノ意味ヲ知ルニ留マルグラキヲ以テ、僅ニ之ヲ得タリトスルニ過ギズ。

1. 意義

ロ、原文

義經之向鵯越也、路險夜黑。令辨慶索嚮導。辨慶

五、和文漢譯法

緒論

1. 意義

和文ヲ漢文ニ譯スルモノニシテ、漢文法ニ準據セザルベカラズ。是ハ、漢文ヲ多讀スルニ由リテ得ラルベシ。

2. 例……

ろ、譯文

認火光。得一人家。

義經ノ鵯越ニ向フヤ、路險ニシテ夜黑シ。辨慶ヲシテ嚮導ヲ索メシム。辨慶火光ヲ認メ、一人ノ家ヲ得タリ。

作文法

上皇ヲハジメ參ラセテ、アラユル人々、オトニ聞ユル爲朝見ントテ、コヅリタマフ。右府卽チ合戰ノオモムキ、ハカラヒ申セト宣ヒケレバ、畏テ爲朝、久シク鎭西ニ居住仕テ、九國ノモノドモシタガヘ候ニ付テ、大小ノ合戰カズヲ知ラズ。中ニモ折角ノ合戰二十餘度ナリ。或ヒハ敵ニ圍マレテ、强陣ヲヤブリ、或ヒハ城ヲ攻メテ、敵ヲ亡スニモ、

漢譯（意譯）

利ヲ得ルコト、夜打ニシクコトハアルベラス。シカレバ、只今高松殿ニオシヨセテ、三方ニ火ヲ掛ケ、一方ニテサヽヘ候ハンニ、火ヲノガレンモノハ、矢ヲ免ルベカラズ。矢ヲ恐レン者ハ、火ヲノガルベカズ。主上ノ御方、心ニクヽモ候ハズ。但シ兄ニテ候義朝ナドコソカケ出シズラメ。コレモマン

原文

ナカサシテ、イトホシ候ナン、マシテ清盛ナドガ、ヘロ〳〵矢何程ノコトカ候フベキ。ヨロヒノ袖ニテ、拂ヒケタラシテ捨テナン。行幸他所ヘナラバ、御許サレヲカフブリテ、御供ノモノ少シインズルホドナラバ、ガヨテフモ、御コシヲ捨テ、ニゲ去リ候ハンズラン。其ノトキ爲朝參リムカヒ、行幸此

結論

2. 例

所ニナシ奉リ、君ヲ御位ニツケ參ラセンコト、タナゴヽロヲカヘスガゴトクニ候フベシ。主上ヲムカヘ參ラセンコト、爲朝ニ矢ハナタンズルバカリニテ、未ダ天ノアケザランサキニセウブヲ決センコト、何ノ疑ヒカ候フベキ。（保元物語ノ一節）

爲朝進而言曰、臣大戰二十、小戰二百、以斐鋤丸國、以小擊要、每利夜攻、臣請今夜襲高松殿、火其三方、而要之一面。其善戰獨有臣兄義朝。然臣一矢斃之。至如平清盛之輩、臣鎧袖一觸、皆自倒耳、乘輿必不得不出、臣乃加矢其從兵、徙輿於此而奉陛下於彼。易如反掌。則東方未白而大事決矣。（日本外史）

作文法

ろ、譯文

二 文例

越谷桃花ノ美。實ニ武州圖鄉ノ最タリ。而シテ人皆水ナキヲ以テ之レヲ病ム。然リ而シテ其ノ水ナキヤ。未ダ水ナシト爲サヾルモノアリ。之ノ時ヤ。天保壬辰三月有七日。余牧馬ヲ小金原ニ觀ル。歸途偶桃花ヲ賣ル者ニ逢フ。曰ク此ノ花イヅレヨリス。曰ク越谷ヨリス。曰ク遠キカ。曰ク僅ニ一村ヲ隔ツルノミト。余之レヲ聞クヤ。遊意勃發。其ノ細ヲ叩クニ暇アラズ。遂ニ迂回シテ越谷驛ニ到ル。驛ヨリシテ左ニ折レ。草徑ヲ穿チテ行ク。行クコト數百步。風奔リ香漲リ。一水皆躍ル。蓋シ

イ、越谷桃花ノ記（野田笛浦）

麥浪ナリ。近ヅキテ之レヲ觀レバ。百樹千草麥浪ノ中ニ列植シ。嬝娜肰麗。眞幻相映ズ。洽波鱗々。數里ニ瀰漫ス。其ノ繽紛地ニ落ツルモノハ。文魚游泳スルガ如ク。大樹ノ横ルモノハ。長橋ノ波ニ臥スガ如ク。農夫ノ耒ヲ摻ルモノハ。漁老ノ竿ヲ揭ゲテ釣レルガ如ク。邑室ノ樹間ニ隱見スルモノハ。蟹舍ノ水岸ニ列ナルガ如ク。觀トシテ花ニアラザルハナク。觀トシテ水ニアラザルハナシ。孰カ越谷ニ水ナシト謂フヤ。夫ノ桃花ヲ水國ニ觀ルモノヲ見ザルヤ。深ケレバ則チ之レニ舟シ。淺ケレバ則チ之レニ揭グ。今ハ則チ舟セズシテ沈沒ノ虞ナク。揭ゲズシテ沾濕ノ患ナシ。甚シ水ノ奇ナ

ルヤ。蓋シ造物萬機ノ忙。偶水ヲ忘ル。已ムコトヲ得ズシテ以テ斯ノ戯ヲナスカ。余是ニ於テカ。益天機ノ巧ナルヲ知ル。豈ニ其レ水ナシト爲スニ忍ビンヤ。因リテ知ル世ノ水ナキヲ以テ之レヲ病ムモノハ。特ニ水ナシト爲スニ忍ブノミナラズ。幷ニ花ナシト爲スニ忍ブモノナルヲ。原漢文

翠濤公子其ノ居ニ扁シテ三友ト曰フ、其ノ三友タル所以ノ者ヲ問フニ、則チ曰ク松。曰ク竹。曰ク梅。松ハ吾其ノ貞姿雄傑矯然高翥ナルヲ愛ス。竹ハ吾其ノ勁直節アリ。斐然章ヲ成スヲ愛ス。梅ハ吾其ノ芳姿清烈郁然香ヲ吐クヲ愛ス。吾此ノ三物ヲ取テ以テ友トシ。朝夕觀テ而シテ玩ブ。庶幾クハ

我ノ德久フシテ之ト化セント。終ニ之ニ類ス矣。余聞テ而シテ其ノ志ヲ偉トシ。且ツ告ゲテ曰ク。公子ノ三物ニ取ル所ノ者ハ。抑託スル所アルカ。蓋シ君子ノ志ヲ立テ德ヲ脩ムル者。友ヲ取ルヨリ急ナルハナシ。今公子ノ取テ愛スル所ノ者ハ。總ニ植物ノミ。觀テ而シテ之ヲ玩ブノミ。乃チ益ナキ無ラン乎。然レドモ其ノ意ノ存スル所。三物ニ在ラズシテ。而シテ三物ノ德ニ在レバ。則チ其ノ托スル所有ルヤ審ナリ。果シテ能ク推シテ之ヲ廣メ。進デ之ヲ大ニシ。之ヲ人ニ取テ。以テ其ノ德ヲ輔ケ。眞ニシテ而シテ傑。漢ノ諸葛孔明。秦ノ王景略其ノ人ノ如ク。直ニシテ而シテ文。吳ノ張子布。

三友亭ノ記

（長野豐山）

唐ノ魏玄成其ノ人ノ如ク。芳ニシテ而シテ烈。普ノ陶元亮宋ノ林和靖其ノ人ノ如キ者。苟モ能ク審カニ擇ンテ而シテ之ヲ取ル。世豈ニ其ノ人ナカランヤ。得テ而シテ之ヲ友トス。公子ノ德ニ補フ所ノ者。豈ニ植物ノ德之ニ比スベケンヤ。然レドモ世ノ庸人動モスレバ輒チ今世復古人ノ如キ者ナキヲ道フ。吁夫レ天地ノ物ヲ生ズルヤ。何ゾ曾テ古今ヲ異ニセンヤ。今夫レ松竹ト梅トハ。挺然衆卉ニ秀ツル者ナリ。其貞傑ト勁直ト香烈トハ。吾未ダ其ノ古今ノ異アルヲ聞カザルナリ。則チ何ゾ獨リ人ニ至ツテ而シテ之ヲ疑ハン則チ公子ノ託スル所之ヲ世俗ノ論ニ視ルニ。其ノ人ノ實不肖タル

ニ於テ如何。然レドモ公子妙年。嚴君上ニ在マス乃チ獨リ其ノ志ヲ觀ルヘクシテ。未ダ其ノ行ヲ觀ルベカラズ矣。且ツ物ニ取ツテ以テ之ヲ託シ。而シテ未ダニ取ルニ及バザレバ。則チ其ノ推シテ而シテ之ヲ廣メ、而シテ之ヲ大ニスル者。余將ニ之ヲ他日ニ期セントス矣。姑ク其ノ物ニ取ル所以ノ者ヲ記シテ以テ旃レヲ勉ム。

人性司善乎吾得テ而シテ知ラザルナリ。人性ハ惡乎吾得テ而シテ知ラザルナリ。孔子曰ク小成ハ天性ノ若シ。習慣ハ自然ニ成ルト。習慣ノ人ニ於ケルヤ大ナリ矣。蓬ハ麻中ニ生ジテ扶ケズシテ。而シテ直、沙ハ泥中ニアリ染メズシテ而シテ黑シ。此レ孟

母三遷ノ教アリテ。而シテ弗列別氏幼稚園ノ舉アル所以ナリ。弗氏ハ獨逸國ノ人嘗テ童稚ノ未ダ學ニ就ク能ハザル者。遊戲方ナク。漸ク惡習ヲ成スヲ患フ。是ニ於テ幼稚園ヲ創ム。其ノ遊戲禮容ヲ設ケ。歌詠ヲ習ヒ。以テ豫メ就學ノ地ヲ爲ス歐米諸邦通邑大都。其ノ設アラザルナシ。鄉校黨序ト表裏ヲ相爲シ。以テ教化ヲ助ク。盛ナリト謂フベシ矣。明治九年六月。官新ニ園ヲ湯島ニ闢ク。地方若干弓、中央石室ヲ構ヘ。室外花卉草木ヲ雜植シ。以テ風氣ヲ透通ス。園東ハ師範學校ト女子師範學校トニ鄰シ。鉅構巍然。三區相望ム。前ハ神田川ニ臨ミ。南ハ駿河臺ト對ス。洵ニ寬敞爽塏ノ地ナ

幼稚園ノ記（鹽谷時敏）

リ矣。凡ソ園ニ入ル男女。三歲ヨリ六歲ニ至ル。百五十名ヲ限ル。保姆二人助手三人ヲ置キ以テ保育ヲ掌ル。其ノ之ヲ教ユルノ法ハ分ツテ三科トス。曰ク物品日用器物及ビ動植ノ名ヲ教フ。曰ク美麗彩繪丹青以テ其ノ心目ヲ喜バス。曰ク智識連環三角木ノ類。撫玩シテ以テ智思ヲ啓發ス。他拜跪周旋算數唱歌說話體操遊戲ノ法ニ至ルマデ。悉ク備ハラザルナシ。余一日有司ニ從ヒ。往テ觀ル穉童少長分ツテ三トス群各數十人。毬ヲ弄スル者算ヲ排スル者板ニ畫シテ人物鳥獸ノ形ヲナス者。歌詞ヲ諷詠スル者。室ニ入テ談話スル者。繩ヲ絶シテ搖蕩スル者。皆熙々然トシテ娛樂ス。復埋鬻竹

馬ノ比ニ非ルナリ。夫レ嬰孩ニシテ園ニ入リ稍ク長ジテ。小學ニ入リ。而シテ中學。而シテ大學。順次之ヲ敎ユ。天下棄才有ルヲ欲スト雖モ得ンヤ。弗氏ノ功是ニ於テカ偉ナリ矣。抑余又竊ニ感ズル所アリ。今我が人口凡ソ三千萬。童穉其半ニ居ル而シテ其學ニ就ク者。蓋シ萬分ノ一都下人口二百萬。童穉其ノ半ニ居ル。而シテ其ノ學ニ就ク者、蓋シ百分ノ一。學ニ就ク者アリ。而シテ此園ニ入ルヲ得ル者ハ蓋シ亦百萬分ノ一。而ルヲ況ンヤ五州ノ廣キ。人民ノ衆キニ於テヲヤ。嗚呼童穉ノ數窮リナシ。而シテ幼稚園ノ設ケ限リ有リ。限リ有ルノ園ヲ以テ。窮リナキノ童穉ヲ敎ユ。何ゾ何ゾ性惡ノ說アルヲ怪マン哉。

門人、原田龜太郎刑セラル、後、數十日、其ノ父市十郎翁、遺像及ビ獄中ノ書ヲ持チ來リテ曰ク。願クハ先生此ノ書ニ因リテ。此ノ像ニ記セヨト。余像ヲ展ベ之レヲ觀ルニ。意氣慨然。容貌眞ニ逼ル。乃チ父ヲシテ其ノ書ヲ讀マシメ。席ヲ正シクシテ肅聽ス。翁讀ミテ曰ク。二月ノ某日。不肖ノ子龜泣血頓首再拜シテ。書ヲ大人ノ膝下ニ奉ル。去年八月。中山侍從公子ノ義兵ヲ大和ニ擧グルヤ。龜モ亦與ル。戰ヒ敗レ。龜等數十人囚ニ就キ。京獄ニ繫ガル。已ニ刑セラル、モノ數人。龜モ亦自ラ必死ヲ分トス。夫レ人誰カ父母ノ恩ヲ蒙ラザラ

二、原田龜太郎遺像ノ記

ン。而シテ龜ノ如キハ尤モ深シ。今萬分ノ一ヲ報イルコト能ハズ。反テ父母ヲシテ此ノ憂ニ罹ラシム。不孝ノ罪。其レ之レヲ何トカ謂ハンヤ。翁此ニ至リテ飲泣シテ讀ムコト能ハズ。余モ亦泣ク。已ニシテ又讀ミテ曰ク。然リト雖モ。龜ノ死スル義ノ爲メナリ徒ニ死スルニアラズ。請フ其ノ罪ヲ恕セヨ。弟妹友愛。龜ニ代ハリテ孝養ヲ是レ祈ル。龜泣血頓首再拜スト。森田益曰ク。大和ノ舉ハ。余未ダ義ニ合フト否ラザルトヲ知ラズ。姑ク之レヲ書シテ遺像ノ記トシ。以テ天下後世ノ定工ノ能クスル所ニ非ザルナリ。余心ニ深ク之レヲ愛ス。居レバ則チ臥遊ニ當テ。往ケバ則チ行莊トス。後

常陸ニ遊ビ。終ニ之レヲ失フ。居恒懷ニ忘ル、コト能ハズ。數以テ人ニ語ル。人或ハ笑ヒテ以テ不達ト爲ス。曰ク古人ノ書畫ニ於ケル。之レヲ雲烟ノ眼ヲ過グルニ譬フ。子何ゾ之レヲ思フノ深キヤト。余之レニ應ヘテ曰ク。夫レ跡ヲ山林ニ遠ザケ。筆墨ヲ以テ自ラ消遣スルハ。是レ高逸ノ士ナリ。余常ニ之レヲ見ント欲シテ未ダ得ザリシモノ。此ノ畫ニ因リテ其ノ人ヲ想フ猶神交ノ如シ。今吾ガ好友ヲ失フ。豈ニ之レヲ雲烟過眼ニ比スルコトヲ得ンヤ。嗚呼。友道ノ講ゼザル。人情澆薄。情ノ鍾ル所。適吾輩ニ在ルノミ。乃チ書シテ以テ吾ガ思ヲ識ス。原漢文

唐ノ皮襲美群芳ヲ評シ。桃ヲ以テ第一トス。夫レ桃花ハ標致固ヨリ凡ナラズ。然レドモ。襲美ノ言ハ則チ好ム所ニ阿ルニ似タリ。古來桃花ヲ稱揚スルモノ衆シ。史遷ガ蹊ヲ成スノ語。半山ガ炫晝ノ句。紅霞紅雨ノ喩。艶外ノ艶華中ノ華ノ賦ノ如キハ。以テ其ノ美ヲ盡スニ足ル。而シテ余ハ則チ更ニ其ノ實ノ世ニ益アルヲ取リ。以爲ク將ニ其ノ華實兼備ヲ以テシテ之レヲ稱セントス。彼レ百世中ニ在リテ。爰ヅ甞テ第二等ニ落チンヤ。惟人モ亦然リ。文ハ華ナリ。質ハ實ナリ。德ハ實ナリ。才ハ華ナリ。才德備リ。文質合ヒテ。然ル後ニ君子ト稱スヲ闕ケバ則チ不可ナリ。米澤ノ宮島恭卿城下ニ

桃花園ノ記（古賀侗菴）

家ス。園ニ桃多シ。因リテ桃花園ト名ヅケ。圖ニシテ寄セ示シ記ヲ徵ス。恭卿ハ學博クシテ行修リ。野ナラズ史ナラズ。予ガ言ヲ勞スルコトナシ。然リト雖モ。予ノ過慮スルハ。猶其ノ或ハ華ヲ先ニシテ實ヲ後ニシ。文勝チテ質散ジ。時俗靡々ノ風ヲ追ハンコトヲ恐ル。故ニ桃花ヲ評スルニ因リテ縱言此ニ及ブ。園ハ兜鍪山ヲ前ニシテ。堀楯川ヲ右ニシ。勝墨一ニアラズ。恭卿ノ錦心繡口。必ズ其ノ詳ヲ賦シ盡スコト。予ガ臆科ノ辭ノ萬一ヲ加フベキニアラズ。故ニ道ハズ。文政戊寅ノ秋八月。紫溟劉煜撰ス。

全ク一山唯松。之レヲ望メバ三面峭絶。一面稍夷

一、記文

ニシテ登ルベキモノハ。熊谷氏ノ古城ナリ。山ヲ遶リテ溪アリ。清深ニシテ魚多ク。石堰水ヲ洩ラス。潺然トシテ風雨ノ如キモノハ横川ナリ。溪ニ傍ヒシ村アリ。簇々千餘家。商賈輻湊シ牛馬織ルガ如キモノハ漢辨ナリ。余漢辨ニ遊ブコト三タビ古城ヲ望ム毎ニ。未ダ嘗テ登リテ以テ。成敗ノ跡ヲ觀ルコトヲ欲セズバアラズ。而シテ未ダ能ハザルナリ。今茲又遊ブ。則チ亦雨テ果サズ。豈ニ古城ノ靈忌ム所アリテ。人ノ其ノ墟ヲ窺フコトヲ欲セザルカ。天正ノ際ニ當リテ。熊谷氏此ノ山ニ虎踞シ。威名一州ニ著ル。而シテ能ク來リテ敵ヲ爲ス者ハ。武田光和ナリ。余來ル時武田氏ノ古城下

漢辨ニ遊ブ記

ヘ、

ヲ過ギ。道ノ傍ニ大石ヲ祭ルヲ見ルニ。高サ人ノ長ノ如シ。之レヲ問ヘバ。則チ曰ク。光和ノ手ラ投ズル所ト云フ。二將ハ勇力相儁シ。地險相敵シ。勝負相持ス。而シテ今皆亡ビタリ。厚壁深塹。火樓重塞ノ。要害ニ備ヘ久安ヲ圖ル所以ノモノ。皆廢墜堙夷セザルコトナシ。而シテ樵牧侵シテ。麋鹿栖メリ。此レ固ヨリ興亡ノ常數。古人諸ヲ夜且ノ錯行スルニ譬フ。怪ムニ足ルモノナキナリ。然レドモ。要スルニ上下二百年ノ間ノミ。則チ安ンヅ二百年後反覆相替ハルコト。斯ノ如クナラザルコトヲ知ランヤ。余是ニ於テ大ニ感ズルアリ。漢辨ハ商賈ノ區。利ヲ得レバ則チ喜ビ。利ヲ失ヘバ

則チ悲ム。孜々トシテ。朝夕唯。貨ヲ是ニ求ム。誰カ余ト共ノ感ヲ同ジクスルモノアランヤ。夜深ケテ。雨休ミ。星月媚々タリ。乃チ千戸ヲ出デ、。古城ヲ望ミ。石堰ノ上ニ立ツルコト之ヲ久シウス。都城ノ中。邸宅相接ス。車馬喧囂ノ聲。晝夜ヲ窮メテ已マズ。高人逸士。一閑地ヲ占メ花ヲ栽エ水ヲ環ラシ。略林泉ノ趣ヲ具ヘント欲スト思フモ難シ。獨井戸君敬甫。庭園甚ダ廣カラズト雖モ。而モ草樹ノ陰翳タル。池水ノ泓澄タル。鳥啼キ花落ツル。純乎タル天趣。此レ亦人生ノ一樂ナリ。頃者君斗室ヲ其ノ隅ニ作ル。結構清楚。一塵點セズ。書笈書幅文房ノ具。左右ニ羅陳ス。梧ニ據リテ坐

遯窩ノ記（安積艮齋）

スルニ。花卉映掩。雲天鏡ニ落チ。偏然トシテ林湖ノ想アリ。而シテ門外塵囂。風馬相及バザルナリ。因リテ扁シテ遯窩ト曰フ。予ニ屬シテ之レヲ記セシム。予謂フ君業既ニ官途中ノ人タリ。而シテ遯ヲ以テ自ラ號トス。其ノ實ニ副ハサルモノヽ如シ。然レドモ君官途ニ處リテ名ニ競ハズ。風節ヲ持シ俗ニ詭セズ。才學ニ富ミテ人ニ矜ラズ。隱然韜晦シテ。形迹ニ露サズ。是レヲ以テ鄉黨僚友。其ノ温且ツ恭ヲ稱セザルハナシ。而シテ周易ニ所謂嘉遯ナルモノカ。夫レ冠ヲ挂ケ世ヲ避ケ。廬ヲ茂松清泉ノ間ニ結ブ。惟麋鹿ヲ之レ侶トシ。猨狖ト與ニ居ル。之レヲ遯ト謂フ。是レ遯ノ小ナ

ルモノナリ。身官海風波ノ中ニ處リテ。能ク自ラ晦シ以テ其ノ危機ヲ踏マザルニ孰若ゾ。是レ乃チ遯ノ大ナルモノナリ。然リト雖モ。山玉ヲ韜ミテ自ラ潤ヒ。淵珠ヲ藏メテ自ラ輝ク。探ル者皆得テ之レヲ識ル。則チ君自ラ晦サント欲スト雖モ。而モ終ニ晦ス能ハザルモノ存セリ。吾レ茲ノ室ニ優遊スルコトヲ得ザルヲ懼ル。文政己丑竹醉日。艮齋安積信撰ス。原漢文

近水樓臺先得月トハ。古人ノ句コアラズヤ。樓ノ景勝一句之ヲ盡セリ。名ヲ得ル所以ナリ。乃チ菅君々質ノ居ル所ナリ。君質ハ世松山藩ノ巨室タリ。人トナリ澹泊虛懷物ヲ容ル。藻鑑アリ。又文ヲ好

近水樓ノ記（佐藤一齋）

ミ。時ニ復筆波瀾ヲ生ズ。余交ヲ締スル已ニ十餘年前ニ在リ。曩ニ其ノ景ヲ圖ニシテ。遠ク記ヲ余ニ徵ス。余未ダ茲ノ樓ヲ見ズ。筆下シ易カラザルナリ。然リト雖モ。一天ノ月華ニ。遠近ナク。古今ナシ。地千里ヲ隔テ、。而モ人則チ之レニ熟ス。況ヤ復其ノ人トナリ澹泊。猶水ノ如ク虛懷物ヲ容ル。猶水ノ如キヲヤ。藻鑑ハ水ナリ。波瀾ハ水ナリ。是レ則チ親シク之レヲ見タリ。倘何ゾ冷然トシテ潤ヒ。洋然トシテ動クモノヲ見テ。後ニ之ヲ水ト云フノミナランヤ。余今復吾ガ樓ニ登リ。以テ月華ヲ把リ。俯仰想像スルニ。神馳セ魂飛ビ。彼ノ水ニ近キ樓ニアリ。則チ月ニ別光ナク。千里

例

觀ヲ同ジクス。乃チ是レ余ガ君質トノ神交ナリ。水近キニ在リテ月モ亦得タリ。復形迹ノ見ルト見ザルトニ拘々セズシテ可ナラン。今姑ク此レヲ之レ記トナス。若シ夫レ景勝ノ美ハ。到ルモノ即チ知ラン。必ズシモ余ガ記ヲ待タジ。

一目千本ハ。尾山八谷ノ一ナリ。花最モ饒シ。故ニ此ノ名アリ。蓋シ芳野ノ櫻谷ニ比スト云フ。余同人ト院ヲ出デ。前崖ヲ下ル。山水梅花ト皆已ニ佳絶ヲ覺フ。意ニ任セテ行ク。一大谷ニ至ル。文稼識リテ之レヲ言フ。徑詰曲シテ上レバ。花之レヲ夾

1. 其二（原文）

ム。歩シテ其ノ間ニ出ヅレバ。白雲ヲ籠ミテ行クガ如シ。數百歩巔ニ達シ。下顧スレバ彌望皜然タリ。溪山ト相輝映ス。余嘗テ芳野ニ遊ビ。其ノ一目千本ヲ觀シニ。此ノ盛アリテ此ノ勝ナン。又嘗テ嵐山ノ櫻花ヲ觀シニ。此ノ勝アリテ此ノ盛ナシ。更ニ之レヲ西土ニ求ムルニ。梅花ヲ以テ名アルモノ。抗ノ孤山境蓋シ幽。花ハ則チ寥々。蘇ノ鄧尉。花頗ル多シ。地ハ則チ海闊。唯羅浮梅花村。峻峰ニ對シ。寒溪ニ臨ミ。而シテ花

尤モ饒シ。庶幾クハ我ガ梅溪ニ比スベキカ。日已ニ歛リ。昏花淡烟ノ中ニ隱レ。千樹依約。其ノ極ル所ヲ見ズ。暗香翁勃人ヲ襲フ。溪聲ヲ聞クニ益近クシテ且ツ大ニ。咫尺色ヲ辨ゼザルニ至リテ後去ル。

昏黑還リテ院ニ入リ。月ノ昇ルヲ俟チテ復出デヽ花ヲ觀ント欲ス。余平生梅溪月夜ノ奇ヲ想ヒ。一遊シテ之レヲ併セント欲シ。歲春每ニ。人ノ伊ヨリ來ル者アレバ。輒チ之レヲ詢フニ。花ノ開謝ト。月ノ虧盈ト每ニ

齟齬シテ相合ハザリキ。之レヲ遲ツコト七八年。今歲ニ至リ。今月望前ヲ以テ來ラント欲ス。然レドモ地山中ニ在ルヲ以テ。花ヲ著クル殊ニ晚シ。其ノ盛開ハ常ニ春分前數日ニ在リ。而シテ春分ハ今月ノ末ニ在リ。其ノ月ナキヲ如何セン。忽チ邵康節ノ詩ヲ思フニ云ク。看レ花切莫レ見ニ離披一ト。私ニ謂フ半開ニ及バヾ則チ佳ナリ。何ゾ其ノ爛漫ヲ待タン。遂ニ望後三日ヲ以テ來ル。豈ニ意ハンヤ花ノ開クコト已ニ七八分。或ハ

2. 其三（原文）

將ニ十分ナラントスルハ。實ニ望外ノ喜ナリ。獨奈セン日已ニ落チ。黑雲天ヲ覆フヲ。意味ハ悵々タリ。燭ヲ張リ飲セント欲ス。此ノ行樽ノ五升ヲ容ルヽモノヲ購ヒ。酒ヲ滿時シ。奴ニ命シテ負荷セシム。呼ビテ之レヲ取リ。酌ムコト數巡ナラズシテ竭キヌ。怪ミテ之レヲ詰ルニ。乃チ知ル奴醉ヒテ地ニ墜トシ傾覆ヲ致スヲ。益悵恨ス。村酒ヲ買ヒ數升ヲ得來ル。盞ヲ洗ヒ更酌ム。甜クシテ口ニ適セズト雖モ。亦自カラ醺然タリ。

文稼ハ風流ノ士。公圖ハ詩ヲ以テ海內ニ名アリ。而シテ半香ハ畫山水ヲ善クス。餘人皆吟詠揮灑シ。少ク愁悶ヲ慰ム。俄ニシテ小笑來リ報ジテ曰ク。雲破レ月出ヅト。衆驚喜シテ狂セント欲シ。盞ヲ捨テヽ走リ出ヅ。時將ニ二更ナラントス。月色清朗。步シテ眞福寺ニ抵ル。枝々月ヲ帶ビ。玲瓏透徹。影盡ク橫斜。寶鈿玉釵。錯落地ニ滿ツ。水其ノ下ニ流レ。鏘然トシテ聲アリ。人境ニ非ザルコトヲ覺フ。岸ニ傍ヒテ西行シ。前ノカ

夕月瀬ヲ望メバ。水清クシテ寒玉ノ月影ヲ漾シ。璧メテ銀鱗ヲナスガ如クニシテ。兩山ノ花倒ニ其ノ上ニ蘸ス。隱約見ルベシ。中流ニ一棹スルニ。山水俱ニ動ク。吾ガ平生ノ願是ニ至リテ酬イヌ。

花月ノ賞已ニ畢リ。還リテ宿ニ就クニ夜已ニ三更ヲ過ギ。疲甚シ。一睡シテ曉ニ到ル。覺ムレバ則チ奇寒骨ニ泌ス。紙窻甚ダ白シ。起チテ戶ヲ推セバ。雪ノ平地ニ積ム三四寸ナルヲ見ル。連ニ奇ト呼ビ。又酒ヲ呼ビ

梅溪遊記（節錄、齋藤拙堂）

3. 其四（原文）

テ滿引大醉ス。同人ト出デヽ復眞福寺ニ赴ク。昨夜月ヲ翫ビシ處ニ到レバ溪山異ナラズト雖モ。丹崖碧巖。悉ク化シテ白玉堆トナル。花モ亦素彩ヲ加ヘ。粉ノ阿郎ノ面ニ傳クガ如ク。其ノ美更ニ增ス。一俯一仰。目ニ入ル皚然タリ。獨溪光益碧ニ。縹玉ノ色ヲナス。梅溪ノ清是ニ於テ極ル。古人梅ヲ論ジ。雪ニ三分ノ白ヲ讓ルト謂フ。然レドモ雪ハ白ヲ以テ勝リ。梅ハ艶ヲ以テ勝ル。各佳趣アリ。韓退之雪梅ヲ詠ジテ曰ク。彩艶不ニ相

因ート。是レ定論ト爲スベキノミ。此ノ行既ニ花月ノ奇ヲ收メ。今又雪梅ノ清ヲ幷ス。天ノ我ニ賜フ何ゾ厚キヤ。往キテ前路ノ勝ヲ覽ント欲フルモ。步履ノ難ヲ以テシテ止ミヌ。舟中既ニ尾山ノ諸谷ヲ覽。又西ナル桃野ヲ觀ント欲シ。纔ニ棹ヲ轉ズレバ則チ北岸未ダ見ザル所ノ山。突兀トシテ躍リ出ヅ。樹石雜ル。虬龍虎豹。譎詭天矯タリ。一石アリ。人ノ冠シテ立ツガ如キヲ。烏帽子巖ト曰フ。水益駛クシテ。嶮壁ニ激搏ス。

4. 其五 (原文)

稍緩キ處。俯シテ之レヲ窺ヘバ。澄徹底ヲ見。游魚數フベシ。花片波ニ點スレバ。輒チ就キテ之ヲ唼フ。得ル所ナクシテ逝ク。之シガ爲メニ一笑ス。仰ギテ桃野ノ前ニ在ルヲ見ルニ。地勢陡絕。黃茅數家縹渺梅花爛漫ノ間ニ現出ス。瑤宮瑤闕ノ白雪中ニ在ルガ如ク。望ムベクシテ即クベカラズ。篙夫云フ。此ノ溪夏月每ニ躑躅花開ク。水變ジテ猩血ノ色ヲナス。亦奇絕タリ。故ニ名ヅケテ躑躅川トナスト。嗚呼。此ノ溪ノ奇。一